

資料3 町民意識調査結果

1 調査の概要

1. 調査の目的

○第2次計画を策定するに当たり、町民の地域福祉に関する意識や地域活動等への参加状況、地域福祉推進における課題等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として町民意識調査を実施した。

2. 調査の実施方法

(1) 調査の対象者

- ・本調査の対象者は、町内在住の20歳以上とし、町の住民基本台帳より3,100人を無作為に抽出。
(平成30年6月5日時点)

(2) 調査方法

- ・郵送による配布・回収

(3) 調査期間

- ・平成30年6月28日～平成30年7月18日

(4) 回収率

- ・発送数：3,100件 回収数：1,035件 回収率：33.4%

(5) 調査項目

- ・基本的なことについて（小学校区、性別、年齢、職業、世帯構成、住宅の種類 など）
- ・地域との関わりについて（居住年数、自治会への加入、住みごこち、近所付き合い、孤立 など）
- ・困っていることや相談について（生活の不安、相談相手 など）
- ・福祉への関心と情報について（地域の福祉情報の入手方法、広報紙等について など）
- ・ボランティアについて（ボランティア活動への参加状況、理由、参加意向 など）
- ・福祉サービスの利用について（不都合や不満の有無、内容 など）
- ・地域福祉の推進について（地域福祉を実現していく上での問題点、学びの機会の参加の有無、参加したい内容、福祉の充実で必要なこと）
- ・地域福祉に関連する用語について（社会福祉協議会、民生委員・児童委員の周知状況 など）

3. 標本誤差について

調査票の有効回収数は、母集団に対し、どの程度の誤差を持つかによって決まります。母集団を推定する際のサンプル数(有効回収数)とのずれの大きさ(標本誤差率)は、下式によって求められます。

$$\text{標本誤差率} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \times \pm 1.96 \times 100\%$$

N=母集団の大きさ(調査対象となる20代~80代の人口)

n=サンプルの大きさ(ここでは有効回収数とする)

P=回答率(通常は0.5を用いる)

±1.96=標準化補正值

N	n (有効回収数)	P	標本誤差率
27,913	1,035	0.5	±2.99

N(母集団):平成29年10月1日現在の20代~80代の人口

一般的に、許容できる標本誤差率の範囲は±4%未満の範囲までであり、今回の調査の有効回収数は1,035件、標本誤差率は±2.99で、回収件数として問題はないと言えます。

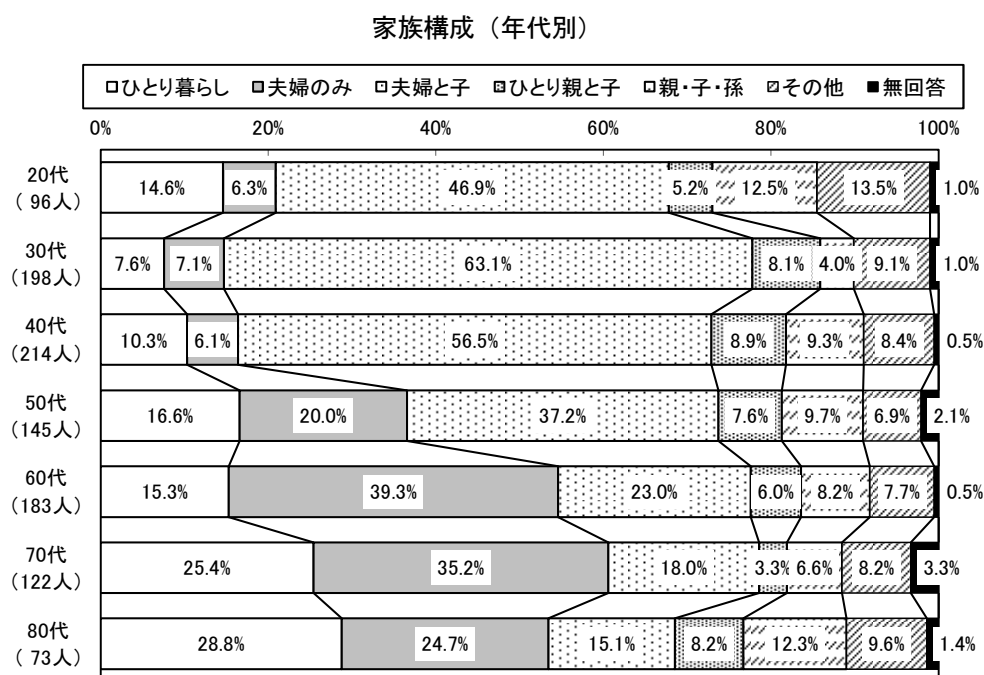
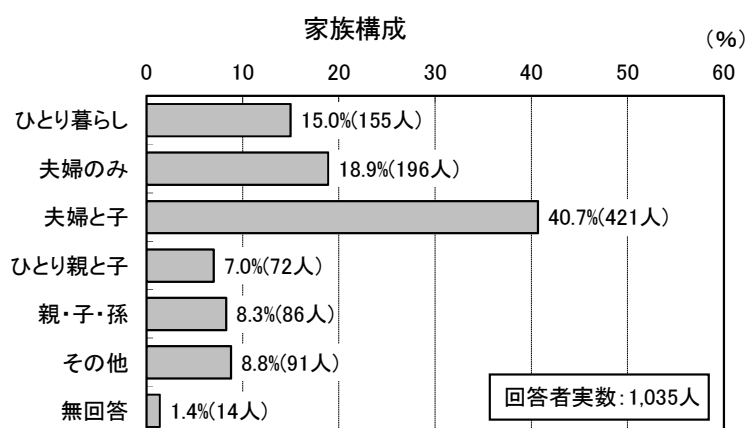
4. 集計・表示について

- (1)集計は単純集計、回答者の属性とのクロス集計及び必要に応じて設問間のクロス集計を行いました。
- (2)比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため比率を合計しても100.0%とならないことがあります。
- (3)複数回答の設問については、比率の合計が100%を超えることがあります。
- (4)「無回答」には回答がなかったもの及び回答の判別が困難(不明)なものを含みます。
- (5)帯グラフでは、特に必要な場合を除いて2.0%未満の割合については、表示していません。
- (6)帯グラフの左端の()内は回答者実数を表します。
- (7)報告書の文章や図表において、選択肢の一部を省略して記載している場合があります。

2 調査結果の概要

(1) 家族構成

- ・家族構成は、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が40.7%、年代別にみると、30代、40代が多く半数以上あり、特に30代は63.1%あります。「夫婦のみ世帯」が18.9%、「ひとり暮らし」が15.0%となっています。
- ・「夫婦のみ世帯」は、40代までは10%以下ですが、50代以降では20%以上あります。特に、「60代」が39.3%でもっとも高いです。
- ・「ひとり暮らし」は、「50代」、「60代」で10%半ば、「70代」、「80代」で20%半ばあります。

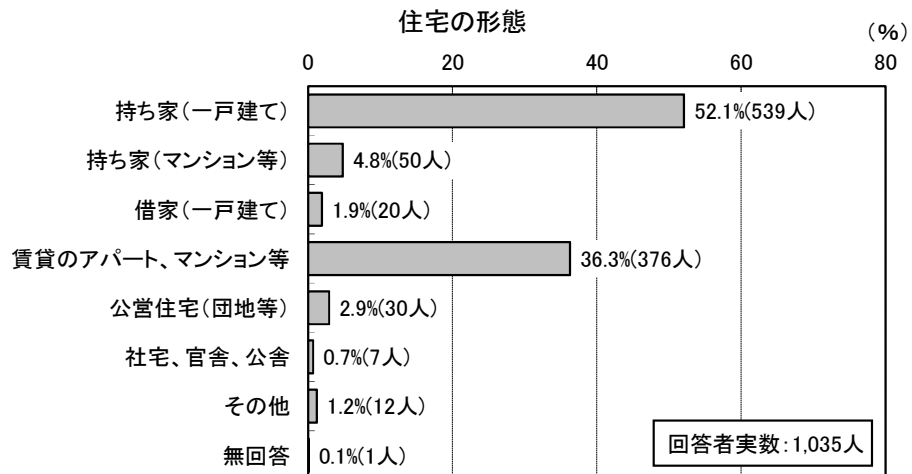


●前回アンケート結果より

- ・世帯構成は、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が44.0%でもっとも高い。特に50歳未満。

(2) 住宅の形態

- ・住宅の形態は、「持家(一戸建て)」が52.1%でもっとも高く、次いで「賃貸のアパート、マンション等」が36.3%で比較的高いです。
- ・「持家(一戸建て)」は「20代」から「40代」が20～30%台と低く、「50代」以降年代が高いほど割合も高くなり、「80代以上」では82.2%となっています。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は若い世代で割合は高く、特に「20代」が60.4%、「30代」は62.1%と半数以上を占めています。



住宅の形態 (年代別)

	回答者実数	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンション等)	借家 (一戸建て)	賃貸のアパート、 マンション等	公営住宅 (団地等)	社宅、官舎、 公舎	その他	無回答
20代	96人	32.3% (31人)	2.1% (2人)	0.0% (0人)	60.4% (58人)	5.2% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
30代	198人	25.8% (51人)	7.1% (14人)	2.5% (5人)	62.1% (123人)	0.5% (1人)	1.5% (3人)	0.5% (1人)	0.0% (0人)
40代	214人	38.8% (83人)	7.0% (15人)	3.3% (7人)	47.2% (101人)	1.4% (3人)	1.4% (3人)	0.9% (2人)	0.0% (0人)
50代	145人	55.2% (80人)	6.2% (9人)	1.4% (2人)	30.3% (44人)	4.1% (6人)	0.7% (1人)	1.4% (2人)	0.7% (1人)
60代	183人	75.4% (138人)	3.8% (7人)	1.6% (3人)	15.8% (29人)	2.2% (4人)	0.0% (0人)	1.1% (2人)	0.0% (0人)
70代	122人	77.9% (95人)	1.6% (2人)	1.6% (2人)	10.7% (13人)	6.6% (8人)	0.0% (0人)	1.6% (2人)	0.0% (0人)
80代	73人	82.2% (60人)	1.4% (1人)	1.4% (1人)	8.2% (6人)	2.7% (2人)	0.0% (0人)	4.1% (3人)	0.0% (0人)

- ・地区別では、「持家(一戸建て)」は「翔南小学校区」が65.1%でもっとも高く、次に「北丘小学校区」の59.2%、「南風原小学校区」は58.0%となっています。「津嘉山小学校区」が29.8%ともっとも少なくなっています。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は「津嘉山小学校区」が52.5%でもっとも高く、次に「北丘小学校区」の34.5%、「南風原小学校区」は32.9%となっています。「翔南小学校区」が20.4%ともっとも少なくなっています。

住宅の形態（地区別）

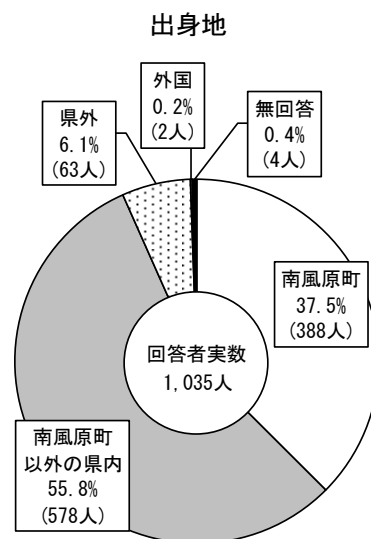
	回答者実数	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンション等)	借家 (一戸建て)	賃貸のアパート、 マンション等	公営住宅 (団地等)	社宅、官舎、 公舎	その他	無回答
南風原 小学校区	243人	58.0% (141人)	5.8% (14人)	2.1% (5人)	32.9% (80人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.8% (2人)	0.4% (1人)
北丘 小学校区	319人	59.2% (189人)	2.2% (7人)	1.9% (6人)	34.5% (110人)	0.3% (1人)	0.6% (2人)	1.3% (4人)	0.0% (0人)
津嘉山 小学校区	265人	29.8% (79人)	6.8% (18人)	1.5% (4人)	52.5% (139人)	6.8% (18人)	1.1% (3人)	1.5% (4人)	0.0% (0人)
翔南 小学校区	186人	65.1% (121人)	4.8% (9人)	2.2% (4人)	20.4% (38人)	5.4% (10人)	1.1% (2人)	1.1% (2人)	0.0% (0人)

●前回アンケート結果より

- ・住宅の形態は、「持家(一戸建て)」が65.8%でもっとも高い。次に「借家(アパート、マンション等)」が23.2%。

(3) 出身地

- ・町内出身者は37.5%です。
- ・「南風原町以外の県内」が55.8%でもっとも高く、「県外」の6.1%、「外国」の0.2%を合わせると町外出身者が62.1%を占めます。

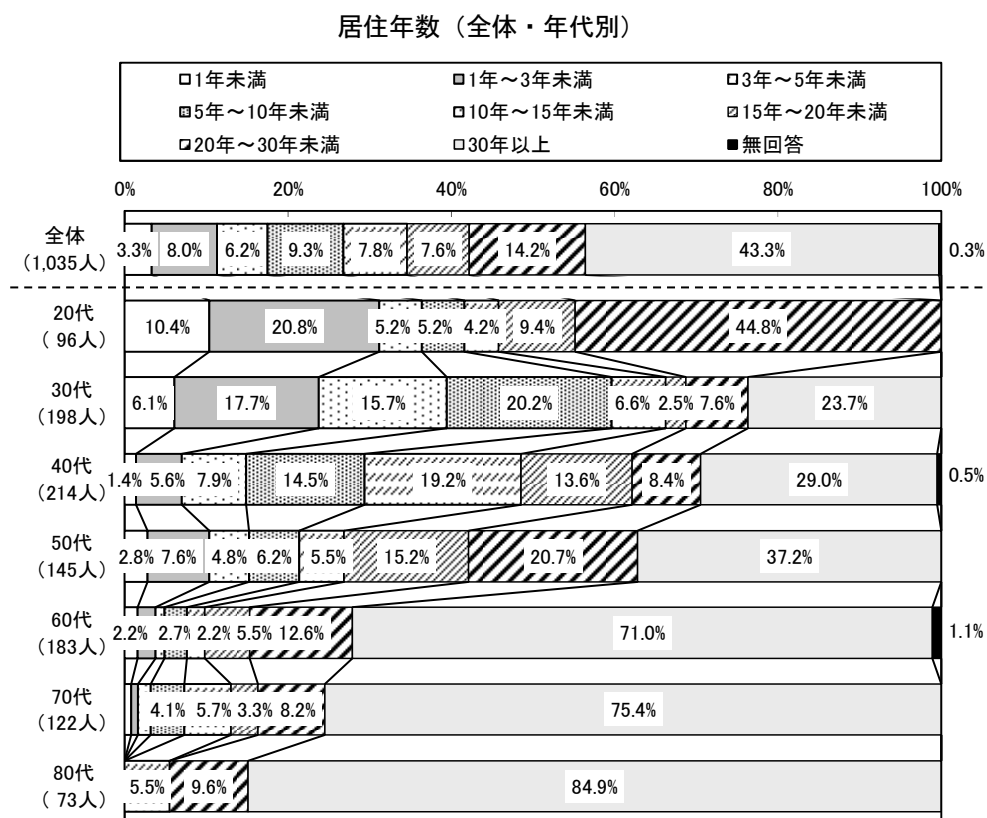


●前回アンケート結果より

- ・町内出身者は39.1%。町外出身者は「南風原町以外の県内」の方が56.5%。「県外」が3.5%、「外国」が0.3%

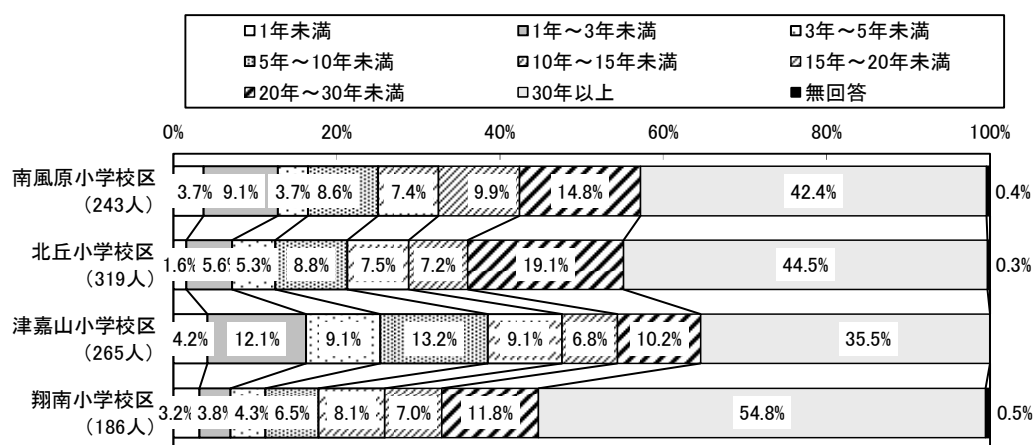
(4) 居住年数

- ・町内への居住年数は、「30年以上」が43.3%でもっとも高いです。
- ・72.9%は10年以上住んでいます。
- ・「30年以上」は年代が上がるとともに高くなる傾向にあります。30代～50代は20～30%台となっています。60代、70代は70%台、80代はもっとも多く84.9%となっています。
- ・一方、「1年未満」「1～3年未満」は年代が高いほど割合は低くなっています。



- ・地区別にみると、「30年以上」は、「翔南小学校区」が54.8%と高く、次に「北丘小学校区」が44.5%、「南風原小学校区」が42.4%となり、「津嘉山小学校区」が35.5%でもっとも低くなっています。

居住年数（地区別）



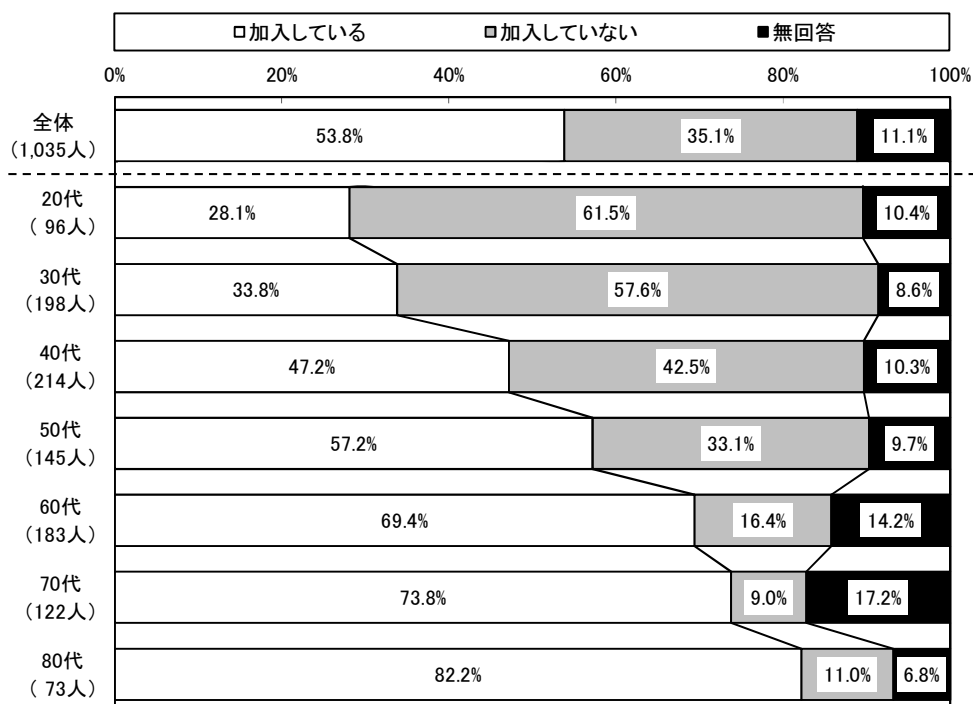
●前回アンケート結果より

- ・居住年数は、30年以上の人が50.0%。翔南小学校区、津嘉山小学校区は50%以上を占める。

(5) 自治会への加入状況

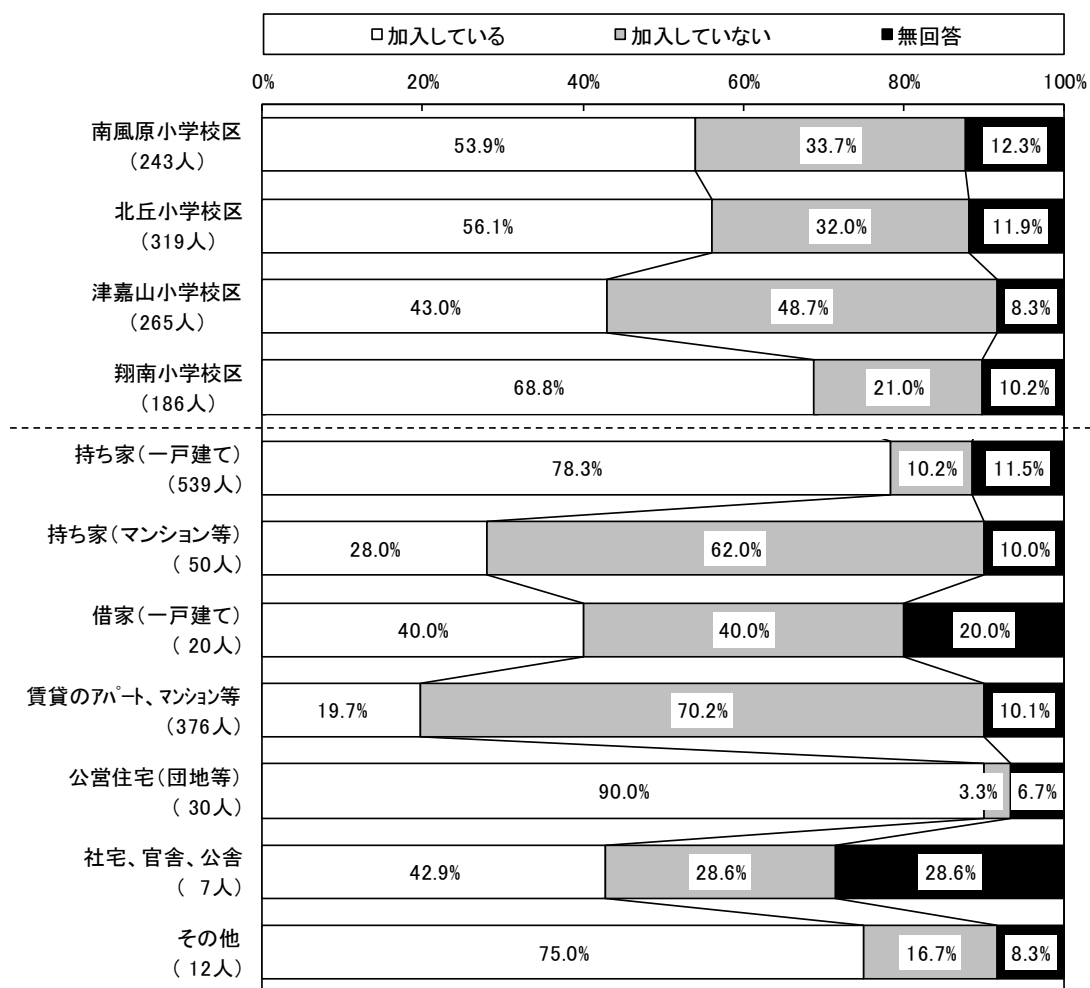
- ・自治会への加入については、「加入している」が53.8%あります。
- ・年代別にみると、「加入している」は年代があがると割合も高くなり、「20代」が28.1%であるのに対し、「80代以上」では82.2%となっています。
- ・「加入していない」は年代が高くなるほど割合は低くなる傾向にあります。

自治会への加入状況（全体・年代別）



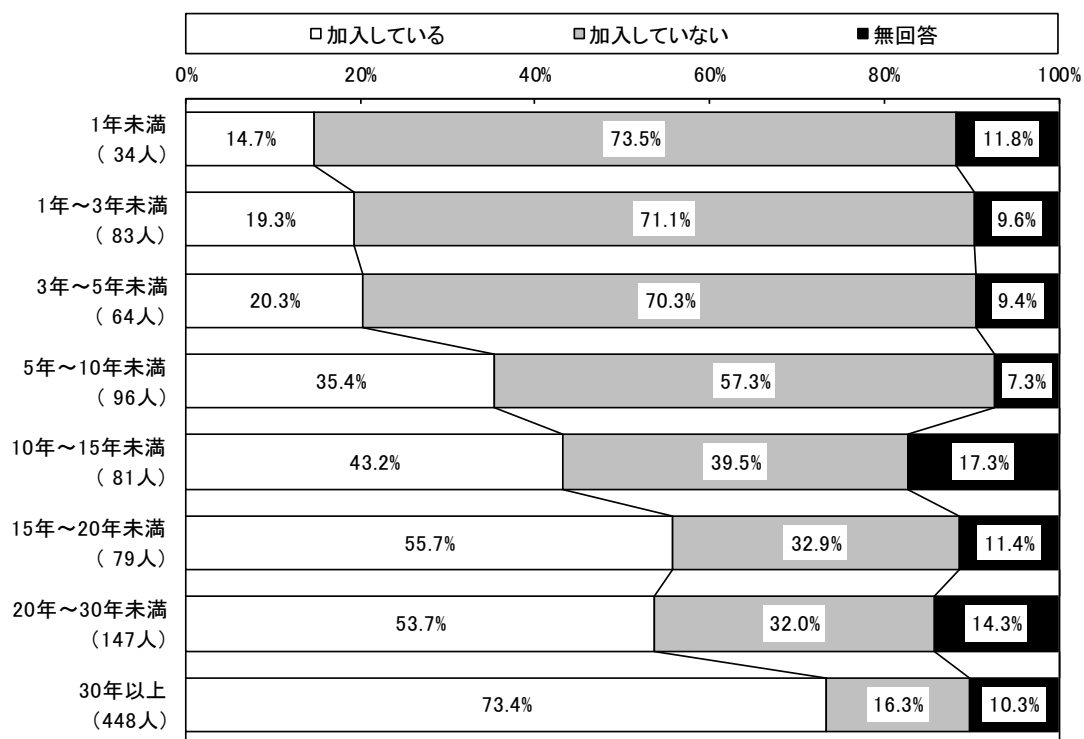
- ・地区別にみると、「加入している」は「翔南小学校区」が68.8%でもっとも高く、「北丘小学校区」、「南風原小学校区」は50%台となっています。「津嘉山小学校区」は43.0%でもっとも低くなっています。
- ・住宅の形態別にみると、「加入している」は「公営住宅(団地等)」90.0%、「持ち家(一戸建て)」が78.3%で高くなっています。反対に、「賃貸のアパート、マンション等」では加入率は19.7%であり、もっとも低くなっています。

自治会への加入状況（地区別・住宅の形態別）



- ・居住年数別にみると、「加入している」は居住年数が長くなるほど加入率が上がり、居住年数5年未満が20%以下で低く、「30年以上」では73.4%となっています。

自治会への加入状況（居住年数別）

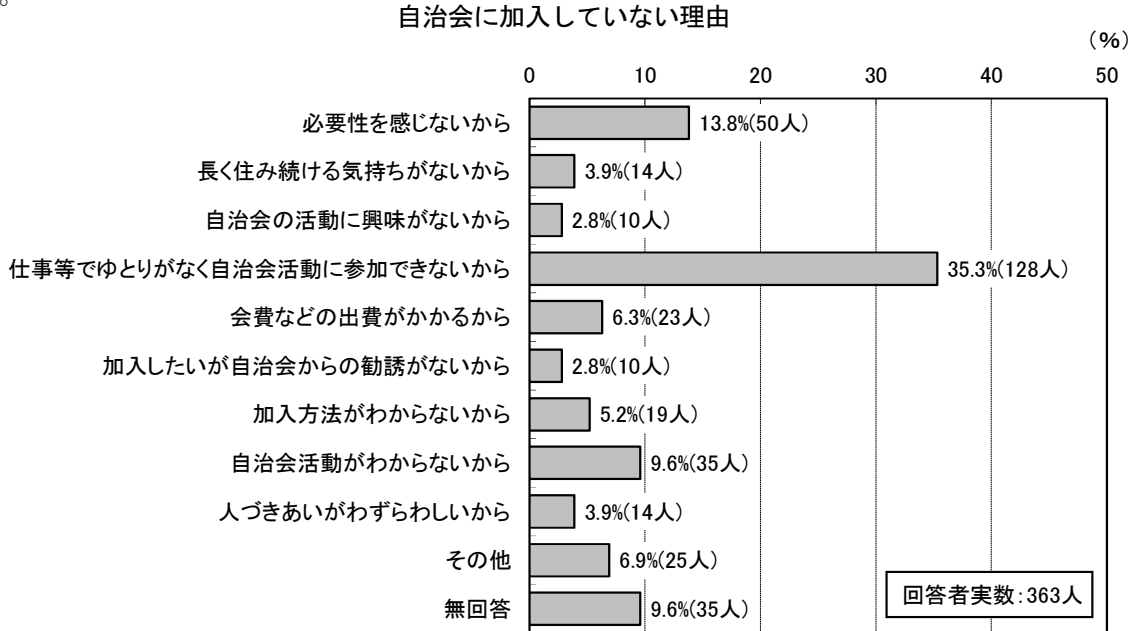


●前回アンケート結果より

- ・自治会への加入率は64.5%。公営住宅(団地等)が82.5%、持ち家(一戸建て)が81.2%。借家(アパート、マンション等)は20.3%。

(6) 自治会に加入していない理由

- ・自治会に「加入していない」理由は、「仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから」が35.3%で、家族構成でみると、「ひとり親と子」と「夫婦と子」が高く、40%半ばあります。
- ・そのほか、「必要性を感じないから」が13.8%、「自治会活動がわからないから」が9.6%となっています。



自治会に加入していない理由（家族構成別）

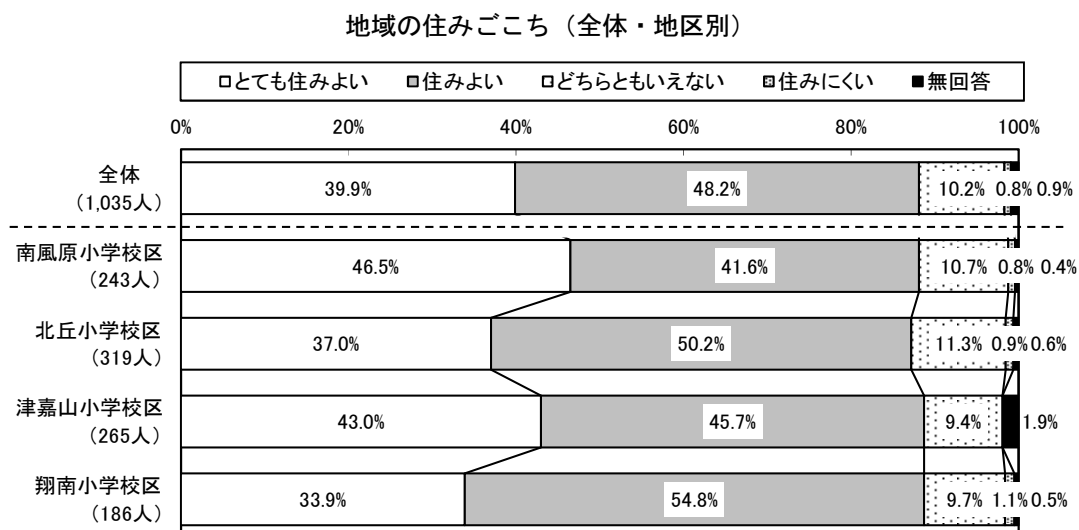
	回答者実数	必要性を感じないから	長く住み続ける気持ちがないから	自治会の活動に興味がないから	仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから	会費などの出費がかかるから	加入したいが自治会からの勧誘がないから	加入方法がわからないから	自治会活動がわからないから	人づきあいがわずらわしいから	その他	無回答
ひとり暮らし	75人	18.7% (14人)	5.3% (4人)	1.3% (1人)	21.3% (16人)	4.0% (3人)	2.7% (2人)	5.3% (4人)	9.3% (7人)	6.7% (5人)	12.0% (9人)	13.3% (10人)
夫婦のみ	49人	18.4% (9人)	4.1% (2人)	8.2% (4人)	22.4% (11人)	10.2% (5人)	0.0% (0人)	6.1% (3人)	12.2% (6人)	6.1% (3人)	6.1% (3人)	6.1% (3人)
夫婦と子	166人	10.8% (18人)	3.6% (6人)	1.2% (2人)	45.2% (75人)	6.0% (10人)	4.2% (7人)	6.0% (10人)	9.6% (16人)	1.2% (2人)	3.6% (6人)	8.4% (14人)
ひとり親と子	32人	15.6% (5人)	0.0% (0人)	6.3% (2人)	46.9% (15人)	9.4% (3人)	3.1% (1人)	3.1% (1人)	3.1% (1人)	3.1% (1人)	3.1% (1人)	6.3% (2人)
親・子・孫	13人	7.7% (1人)	7.7% (1人)	0.0% (0人)	23.1% (3人)	7.7% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.7% (1人)	23.1% (3人)	23.1% (3人)
その他	22人	9.1% (2人)	4.5% (1人)	4.5% (1人)	31.8% (7人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	18.2% (4人)	0.0% (0人)	13.6% (3人)	13.6% (3人)

●前回アンケート結果より

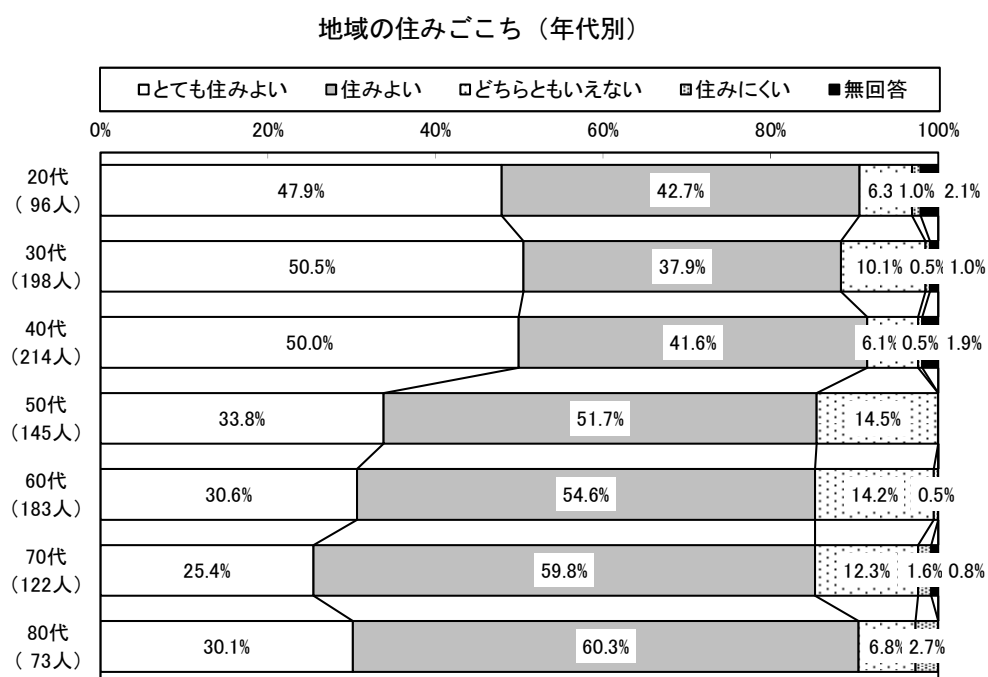
- ・「仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから」は40.3%。夫婦と未婚の子のみの世帯が45.5%、片親と未婚の子のみの世帯が41.7%。
- ・「必要性を感じないから」は16.9%。

(7) 地域の住みごち

- ・町の住みごちは、「住みよい」が48.2%と最も多く、次いで「とても住みよい」が39.9%で「住みよい」と「とても住みよい」を合わせると88.1%となっています。「どちらともいえない」の10.2%、「住みにくい」は0.8%となっています。
- ・「とても住みよい」、「住みよい」と答えた方はすべての地区で80%台後半となっております。



- ・年代別にみると、「住みよい」と「とても住みよい」が最も多いのは40代で91.6%、20代、30代と80代でも80%台後半～90%程度と高くなっており、そのほかの年代でも85%程度となっております。

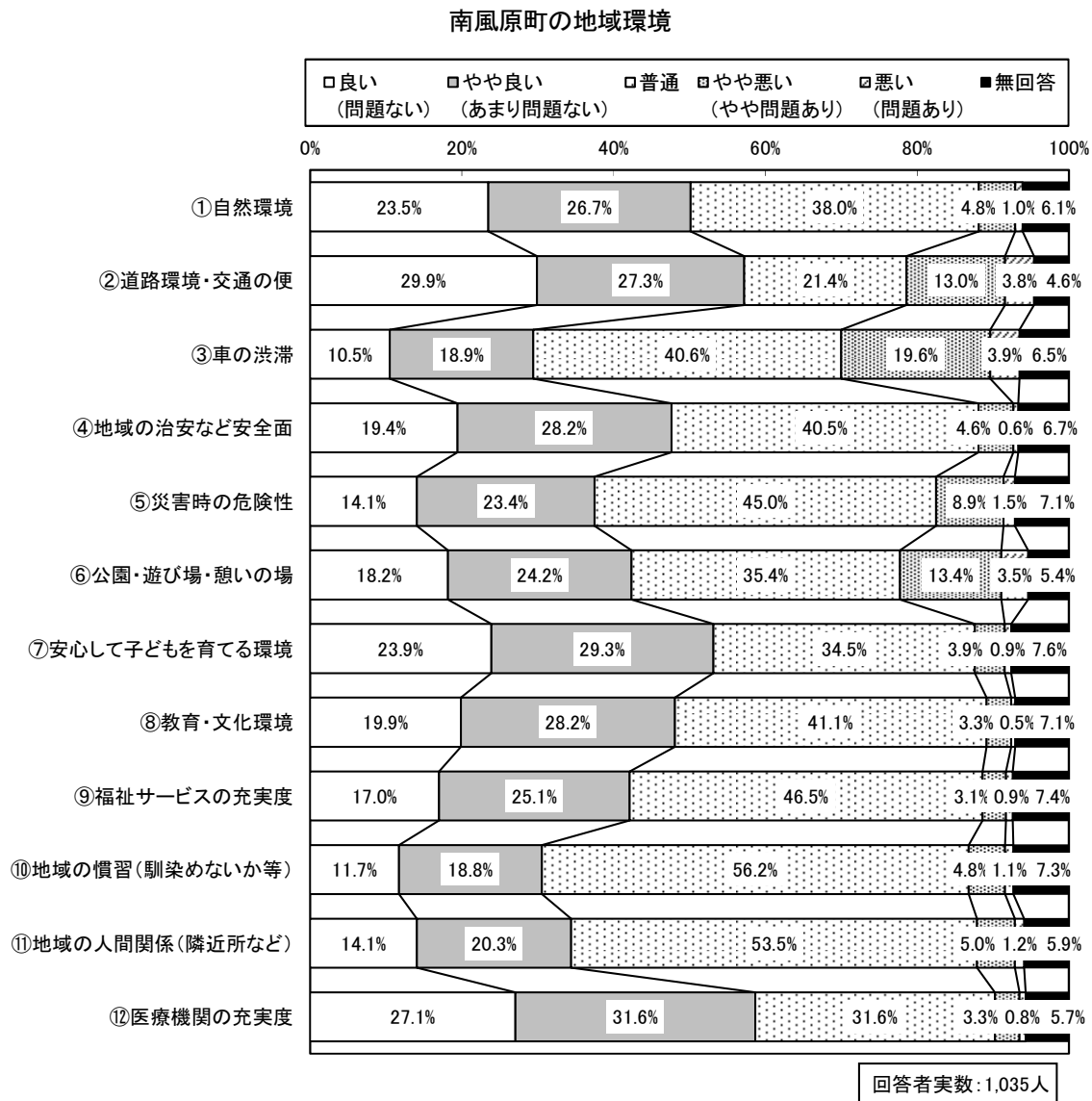


●前回アンケート結果より

- ・「住みよい」が53.5%、「とても住みよい」が32.1%で合わせると85.6%。「どちらともいえない」が11.4%、「住みにくい」は1.5%

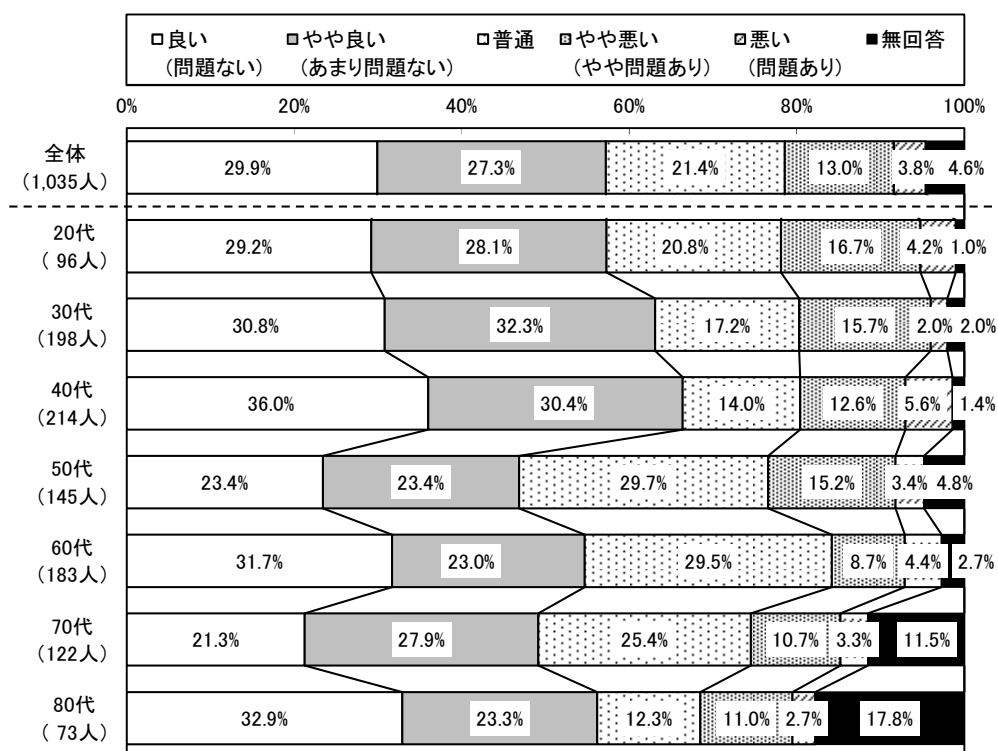
(8) 南風原町の地域環境

- ・南風原町の地域環境について見ると、「良い(問題ない)」と「やや良い(あまり問題ない)」を合わせた“良い”がもっとも多いのは、「医療機関の充実度」で58.6%、次いで「道路環境・交通の便」が57.2%となっています。また、「やや悪い(やや問題あり)」と「悪い(問題あり)」を合わせた“悪い”がもっとも多いのは、「車の渋滞」の23.5%となっています。

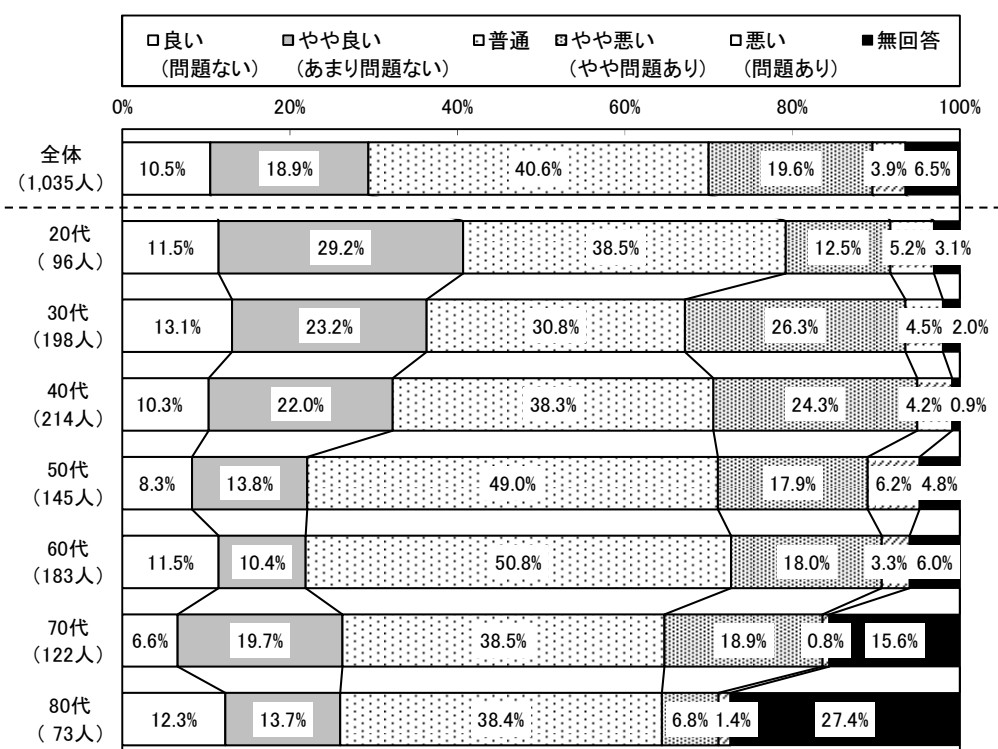


- ・年代別にみると、「道路環境・交通の便」の“良い”は、20代から40代の世代では50%台後半～60%台後半で、50代からは40%半ば～50%半ばとなっています。“悪い”は、20代が20.8%と最も高く、年代が高くなるとともに低くなっており、80代では13.7%となっております。
- 「車の渋滞」では、“良い”は20代から40代の世代では30～40%台、50代からは20%台となっております。“悪い”は30代から60代の世代では20～30%台、そのほかの世代では10%台となっております。

道路環境・交通の便（全体・年代別）

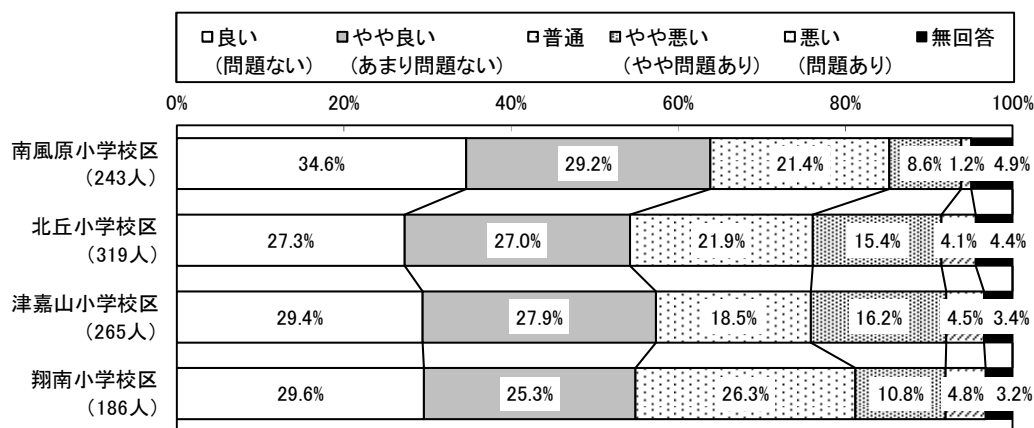


車の渋滞（全体・年代別）

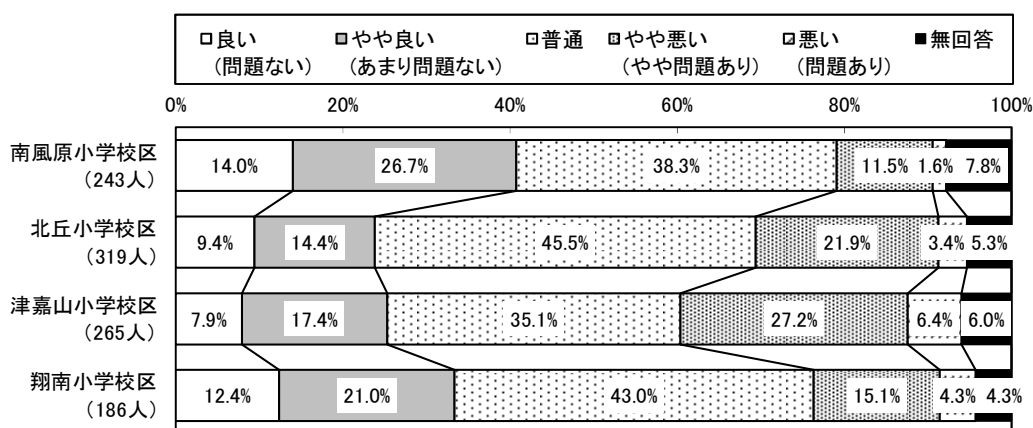


- ・地区別にみると、「道路環境・交通の便」の“良い”は、「南風原小学校区」がもっとも高く、63.8%あります。“悪い”は「津嘉山小学校区」の20.8%や「北丘小学校区」の19.5%が高いです。「車の渋滞」でも“良い”は「南風原小学校区」がもっとも高く、40.7%あります。“悪い”は「津嘉山小学校区」の33.6%でもっとも高いです。

道路環境・交通の便（地区別）

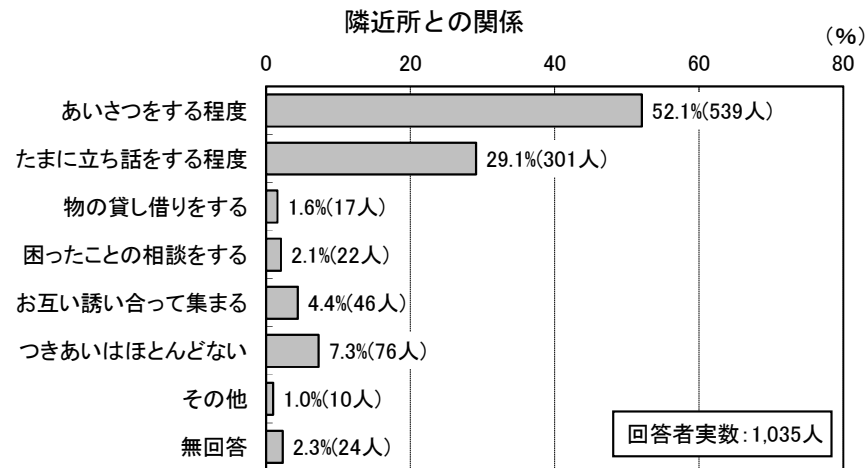


車の渋滞（地区別）



(9) 隣近所との関係

- ・隣近所とのつきあいの状況は、「あいさつをする程度」が52.1%、「たまに立ち話をする程度」が29.1%となっています。
- ・「つきあいはほとんどない」は7.3%となっています。



- ・年代別にみると、あいさつをする程度のつきあいは、「20代」が67.7%、「30代」が65.7%、「40代」が64.0%で高くなっていますが、年代が高くなるほど割合は低くなっています。
- ・反対に、たまに立ち話をする程度のつきあいは、「20代」が10.4%で低く、年代が高くなるほど割合は概ね高くなり「70代」、「80代」は40%台となっています。
- ・「つきあいはほとんどない」は、「20代」が17.7%で高く、それ以外の年代では割合は低く、10%未満となっています。

隣近所との関係（年代別）

	回答者 実数	あいさつを する程度	たまに立 ち話をす る程度	物の貸し借 りをする	困ったこ との相談 をする	お互い誘 い合って 集まる	つきあい はほとん どない	その他	無回答
20代	96人	67.7% (65人)	10.4% (10人)	1.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	17.7% (17人)	1.0% (1人)	2.1% (2人)
30代	198人	65.7% (130人)	20.2% (40人)	0.5% (1人)	1.5% (3人)	3.0% (6人)	6.1% (12人)	1.0% (2人)	2.0% (4人)
40代	214人	64.0% (137人)	22.4% (48人)	0.5% (1人)	1.9% (4人)	1.9% (4人)	6.5% (14人)	0.5% (1人)	2.3% (5人)
50代	145人	53.8% (78人)	26.9% (39人)	1.4% (2人)	1.4% (2人)	7.6% (11人)	6.9% (10人)	0.7% (1人)	1.4% (2人)
60代	183人	42.6% (78人)	39.9% (73人)	2.7% (5人)	1.6% (3人)	4.4% (8人)	7.1% (13人)	1.1% (2人)	0.5% (1人)
70代	122人	27.0% (33人)	45.1% (55人)	1.6% (2人)	3.3% (4人)	8.2% (10人)	6.6% (8人)	2.5% (3人)	5.7% (7人)
80代	73人	24.7% (18人)	43.8% (32人)	6.8% (5人)	8.2% (6人)	9.6% (7人)	2.7% (2人)	0.0% (0人)	4.1% (3人)

- ・地区別にみると、あいさつをする程度のつきあいは、「津嘉山小学校区」、「北丘小学校区」、「南風原小学校区」が50％台と半数以上となっており、「翔南小学校区」は44.1％と他の地区より低くなっております。
- ・たまに立ち話をする程度のつきあいは、「翔南小学校区」が34.9％で他の地区より高く、次に「北丘小学校区」と「南風原小学校区」が30％程度、「津嘉山小学校区」が23.0％となっております。
- ・「つきあいはほとんどない」は「津嘉山小学校区」が9.8％と、比較的高くなっています。

隣近所との関係（地区別）

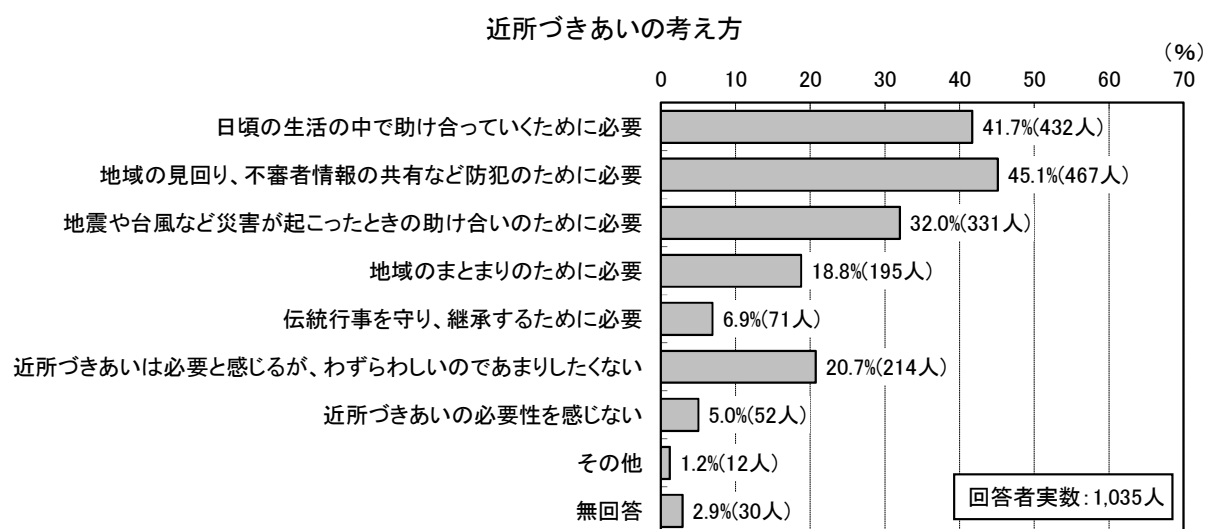
	回答者 実数	あいさつを する程度	たまに立 ち話をする 程度	物の貸し借 りをする	困ったこ との相談 をする	お互い誘 い合っ て集まる	つきあ いはほと んどない	その他	無回答
南風原 小学校区	243人	52.3% (127人)	29.6% (72人)	1.6% (4人)	1.6% (4人)	4.5% (11人)	5.8% (14人)	0.8% (2人)	3.7% (9人)
北丘 小学校区	319人	53.6% (171人)	30.4% (97人)	0.6% (2人)	0.9% (3人)	3.8% (12人)	7.8% (25人)	0.3% (1人)	2.5% (8人)
津嘉山 小学校区	265人	55.8% (148人)	23.0% (61人)	2.3% (6人)	2.3% (6人)	4.5% (12人)	9.8% (26人)	1.1% (3人)	1.1% (3人)
翔南 小学校区	186人	44.1% (82人)	34.9% (65人)	2.2% (4人)	4.8% (9人)	4.8% (9人)	5.4% (10人)	2.2% (4人)	1.6% (3人)

●前回アンケート結果より

- ・隣近所との関係：「あいさつをする程度」40.2％（若い世代でやや高め）
「たまに立ち話をする程度」36.0％（若い世代では低い）
- ・「つきあいはほとんどない」が7.6％（40代以下がやや高め。）

(10) 近所づきあいの考え方（複数回答）

- ・近所づきあいの考え方については、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」が45.1%でもっとも高く、次に「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」が41.7%、「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」が32.0%となっており、これら3つが他の項目より高いです。



- ・地区別にみると、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」は、「翔南小学校区」は39.2%と他地区より低くなっていますが、そのほかの地区では40%台後半と高くなっています。「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」は、「南風原小学校区」と「翔南小学校区」で40%台後半と高くなっています。「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」は「北丘小学校区」、「津嘉山小学校区」が37%程度で高く、「南風原小学校区」と「翔南小学校区」は20%台と低くなっています。
- ・近所づきあいに否定的な意見は、「北丘小学校区」が30.4%でもっとも高く、次に「津嘉山小学校区」が24.2%、「翔南小学校区」が23.1%、「南風原小学校区」が23.0%となっています。

近所づきあいの考え方（地区別）

	回答者実数	日頃の生活の中で助け合っていくために必要	地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要	地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要	地域のまとまりのために必要	伝統行事を守り、継承するために必要	近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない	近所づきあいの必要性を感じない	その他	無回答
南風原小学校区	243人	47.7% (116人)	46.1% (112人)	26.3% (64人)	22.2% (54人)	6.2% (15人)	19.8% (48人)	3.3% (8人)	0.0% (0人)	3.3% (8人)
北丘小学校区	319人	36.1% (115人)	45.1% (144人)	37.0% (118人)	12.5% (40人)	4.1% (13人)	23.2% (74人)	7.2% (23人)	2.2% (7人)	3.4% (11人)
津嘉山小学校区	265人	40.4% (107人)	48.7% (129人)	37.4% (99人)	17.4% (46人)	6.8% (18人)	17.7% (47人)	6.4% (17人)	1.5% (4人)	1.9% (5人)
翔南小学校区	186人	46.2% (86人)	39.2% (73人)	23.7% (44人)	27.4% (51人)	12.9% (24人)	22.0% (41人)	1.1% (2人)	0.5% (1人)	2.7% (5人)

- 年代別にみると、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」は若い世代が高く、20代から40代が50%台となっており、そのほかでは80代が高く、43.8%となっています。「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」は年代が上がるとともに割合は高くなり、20代から40代では30%台となっていますが、70代以上では50%以上と高くなっています。「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」は年代による差はあまりみられませんが、比較的若い世代が高く「30代」が37.4%となっています。
- 一方、「近所づきあいが必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」は、30代が26.3%と最も高く、80代が4.1%と最も低くなっています。

近所づきあいの考え方（年代別）

	回答者実数	日頃の生活の中で助け合っていくために必要	地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要	地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要	地域のまとまりのために必要	伝統行事を守り、継承するため必要	近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない	近所づきあいの必要性を感じない	その他	無回答
20代	96人	39.6% (38人)	52.1% (50人)	34.4% (33人)	8.3% (8人)	3.1% (3人)	18.8% (18人)	7.3% (7人)	1.0% (1人)	3.1% (3人)
30代	198人	35.4% (70人)	55.6% (110人)	37.4% (74人)	10.6% (21人)	3.5% (7人)	26.3% (52人)	3.0% (6人)	1.0% (2人)	1.5% (3人)
40代	214人	38.3% (82人)	50.0% (107人)	32.2% (69人)	14.5% (31人)	5.1% (11人)	25.7% (55人)	3.7% (8人)	0.9% (2人)	2.3% (5人)
50代	145人	40.0% (58人)	35.2% (51人)	29.7% (43人)	23.4% (34人)	9.0% (13人)	22.1% (32人)	7.6% (11人)	3.4% (5人)	2.8% (4人)
60代	183人	44.3% (81人)	39.9% (73人)	30.1% (55人)	27.9% (51人)	9.8% (18人)	19.1% (35人)	6.6% (12人)	0.5% (1人)	1.6% (3人)
70代	122人	51.6% (63人)	33.6% (41人)	31.1% (38人)	27.9% (34人)	7.4% (9人)	15.6% (19人)	4.9% (6人)	0.0% (0人)	4.1% (5人)
80代	73人	50.7% (37人)	43.8% (32人)	24.7% (18人)	21.9% (16人)	13.7% (10人)	4.1% (3人)	2.7% (2人)	1.4% (1人)	9.6% (7人)

- ・同居家族別にみると、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」は、「幼児」と「小学生」と「専門・大学生」がいる世帯が50%台と半数以上を占めています。「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」では、すべての同居家族で30%台後半から40%台とあまり違いはありませんが、「高齢者」が44.9%と最も高くなっております。「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」では、すべての同居家族で20%台半ばから30%台とあまり違いはありませんが、「乳児」が38.9%と最も高くなっております。

近所づきあいの考え方（同居家族別）

	回答者実数	日頃の生活の中で助け合っていくために必要	地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要	地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要	地域のまとまりのために必要	伝統行事を守り、継承するため必要	近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない	近所づきあいの必要性を感じない	その他	無回答
乳児	54人	38.9% (21人)	46.3% (25人)	38.9% (21人)	9.3% (5人)	7.4% (4人)	27.8% (15人)	5.6% (3人)	1.9% (1人)	3.7% (2人)
幼児	179人	43.0% (77人)	59.2% (106人)	34.1% (61人)	11.2% (20人)	3.4% (6人)	19.0% (34人)	3.4% (6人)	0.6% (1人)	1.1% (2人)
高齢者	247人	44.9% (111人)	42.9% (106人)	26.3% (65人)	27.5% (68人)	8.1% (20人)	18.6% (46人)	3.2% (8人)	0.0% (0人)	3.2% (8人)
要介護者	60人	43.3% (26人)	35.0% (21人)	31.7% (19人)	23.3% (14人)	10.0% (6人)	21.7% (13人)	5.0% (3人)	3.3% (2人)	3.3% (2人)
障がい者	80人	42.5% (34人)	32.5% (26人)	27.5% (22人)	17.5% (14人)	13.8% (11人)	21.3% (17人)	5.0% (4人)	1.3% (1人)	7.5% (6人)
小学生	199人	40.2% (80人)	58.8% (117人)	33.7% (67人)	13.1% (26人)	4.0% (8人)	20.1% (40人)	2.5% (5人)	0.5% (1人)	2.0% (4人)
中・高校生	150人	41.3% (62人)	48.7% (73人)	28.7% (43人)	22.7% (34人)	8.0% (12人)	18.0% (27人)	4.0% (6人)	0.7% (1人)	2.0% (3人)
専門・大学生	65人	40.0% (26人)	55.4% (36人)	27.7% (18人)	20.0% (13人)	9.2% (6人)	16.9% (11人)	1.5% (1人)	1.5% (1人)	4.6% (3人)
いずれもいない	319人	39.8% (127人)	38.9% (124人)	34.5% (110人)	18.8% (60人)	7.2% (23人)	23.8% (76人)	7.2% (23人)	1.6% (5人)	1.9% (6人)

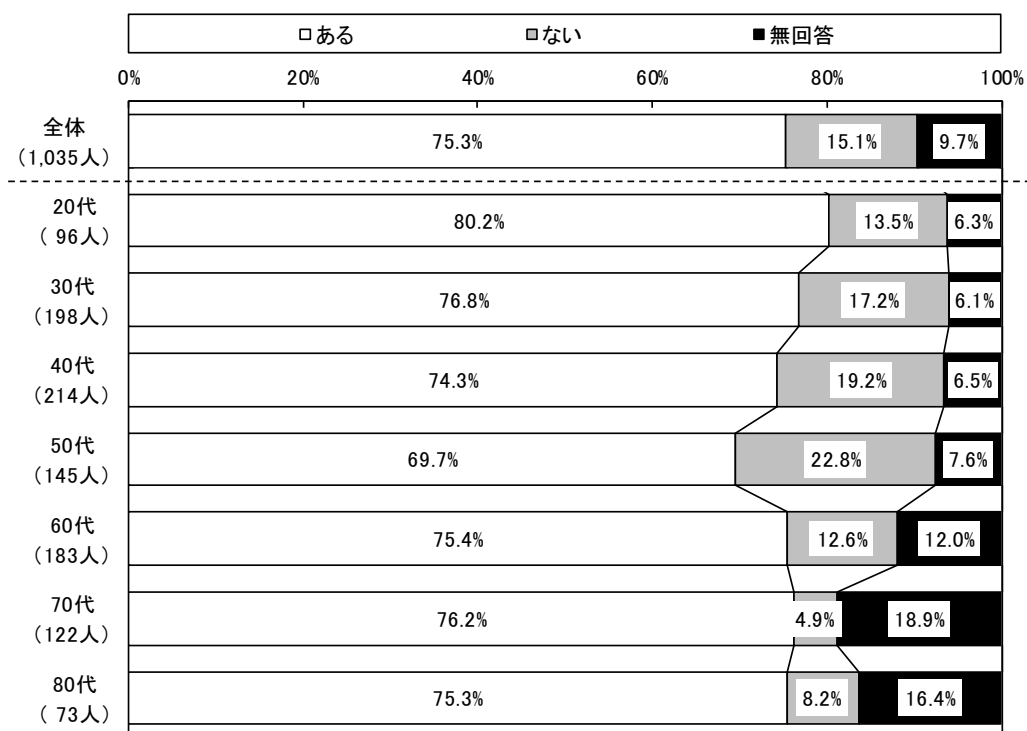
●前回アンケート結果より

- ・近所づきあいは「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」が47.3%、翔南小学校区は56.5%
- ・「地域の防犯のために必要」は36.0%。30代でやや高い
- ・「災害が起こったときの助け合いのために必要」は30.7%。津嘉山小学校区、北丘小学校区で30%台。その他の地域は20%台。

(11) 孤立

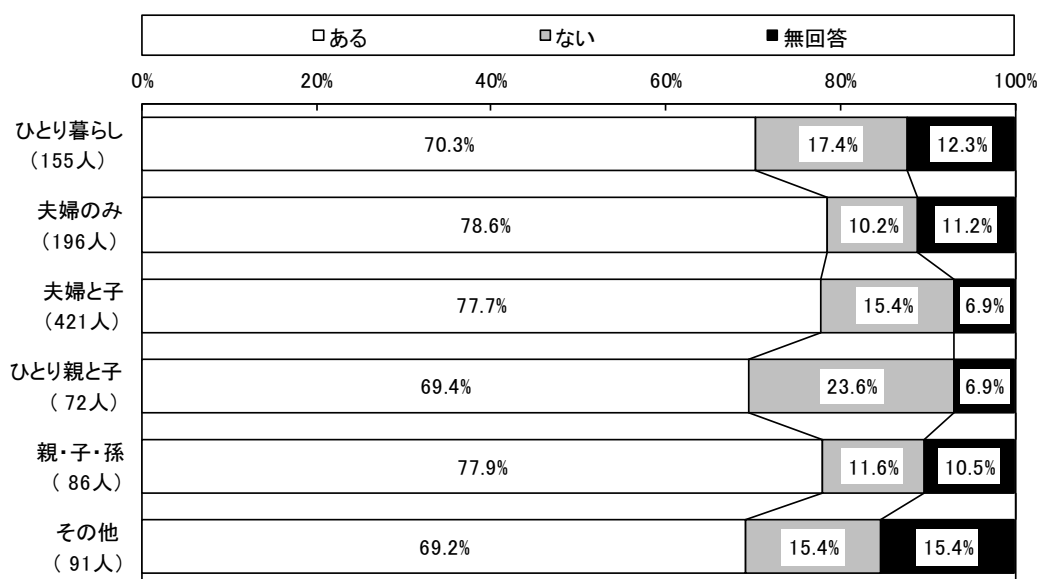
- ・人とふれあう機会については、「ある」が75.3%と大半を占め「ない」が15.1%となっています。
- ・年代別にみると、「ある」は20代が80.2%と最も高く、50代が69.7%と最も低くなっています。また、そのほかの年代では70%半ばとなっています。「ない」は、50代が22.8%、40代が19.2%と高くなっています。

人とふれあう機会の有無（全体・年代別）



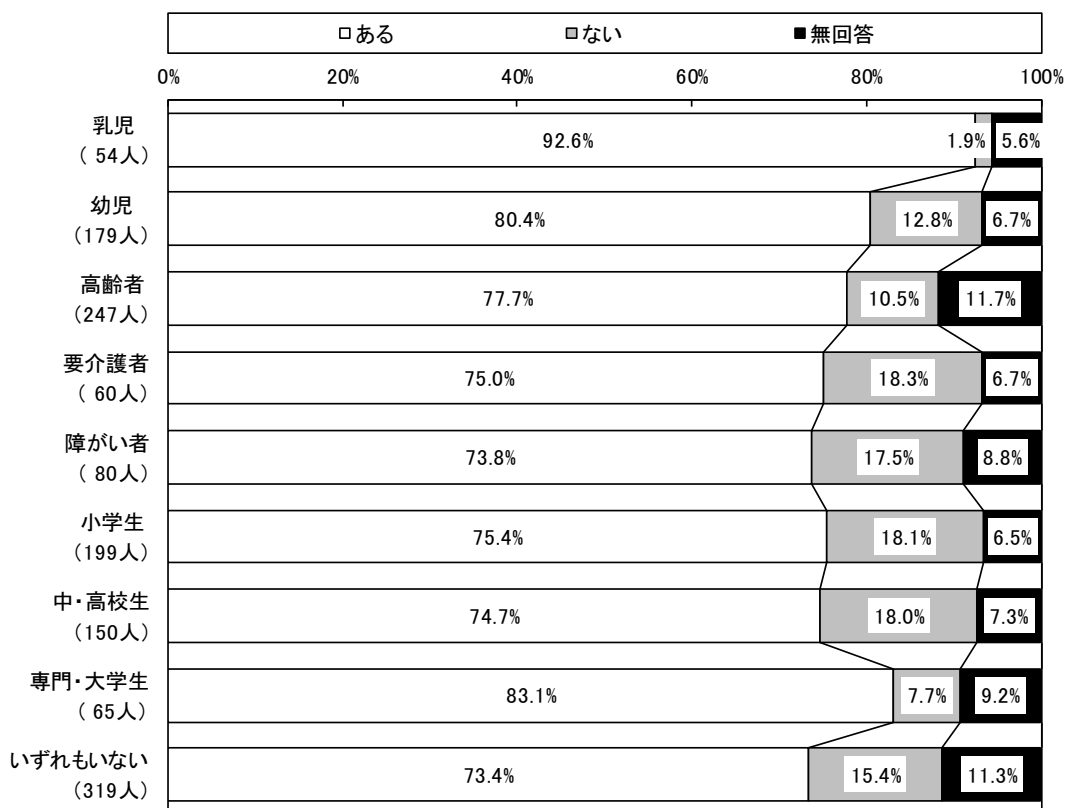
- ・家族構成別でみると、「ある」は夫婦のみが最も高く78.6%あり、ひとり親と子が最も低く69.4%となっています。
- ・「ない」はひとり親と子が最も高く23.6%となっています。

人とふれあう機会の有無（家族構成別）



- ・同居家族別でみると、「ある」は乳児のいる世帯が最も高く92.6%あり、障がい者が最も低く73.8%となっています。
- ・「ない」は要介護者が最も高く18.3%となっています。

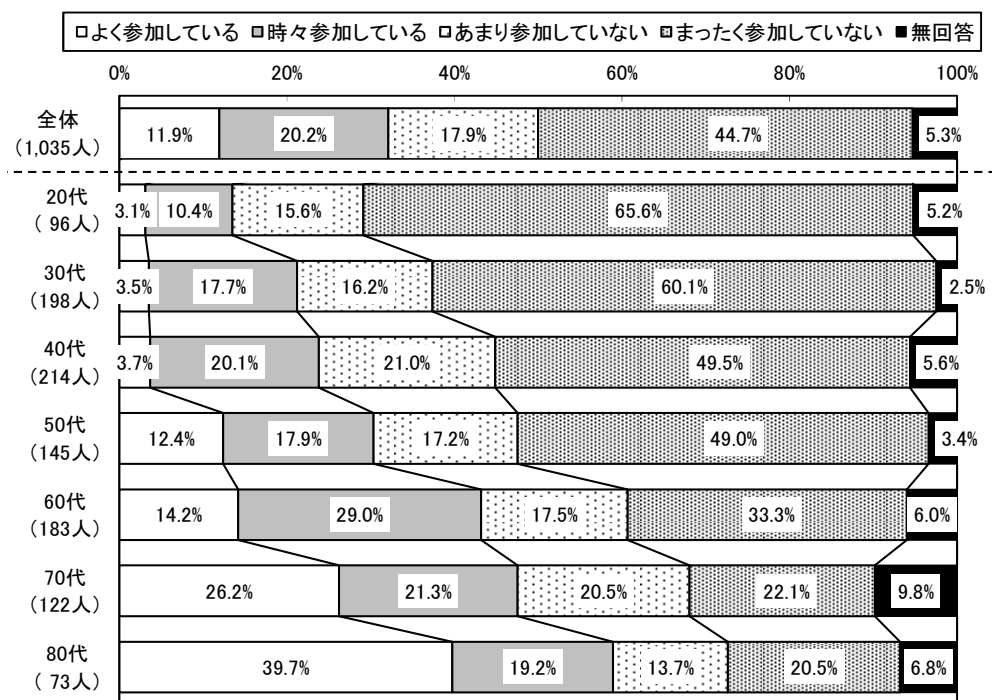
人とふれあう機会の有無（同居家族別）



(12) 地域活動・行事への参加状況

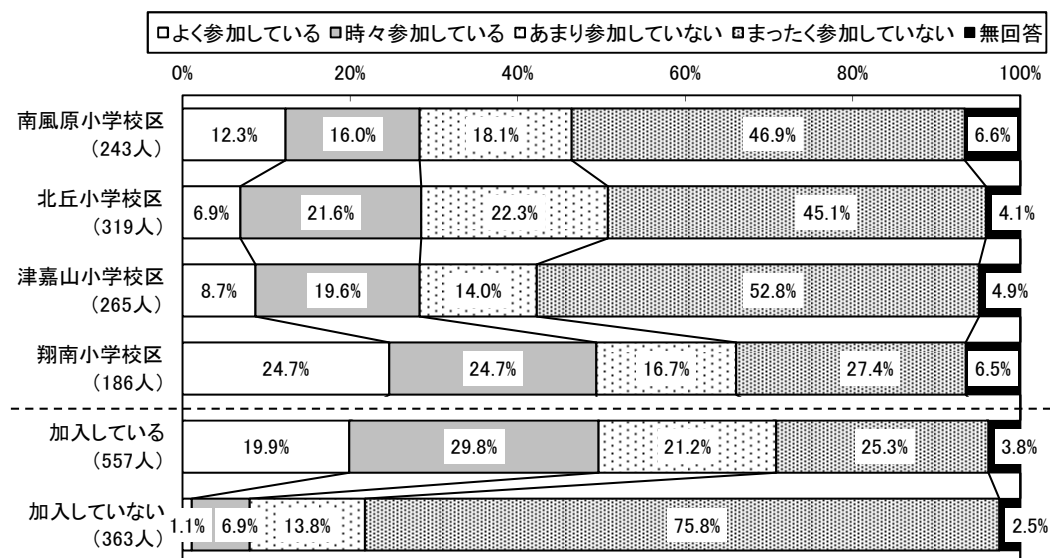
- ・地域活動への参加については、「まったく参加していない」が44.7%、「あまり参加していない」が17.9%で合わせると62.6%となっています。参加している割合は、「よく参加している」が11.9%、「時々参加している」が20.2%で合わせると32.1%となっています。
- ・年代別にみると、「まったく参加していない」と「あまり参加していない」を合わせた参加していない割合は年代があがるとともに割合は低くなっており、「20代」が81.3%に対し、「80代」では34.2%となっています。
- ・「よく参加している」と「時々参加している」を合わせた参加している割合は、年代があがるとともに割合も高くなっており、「20代」の13.5%に対し、「80代」では58.9%となっています。

地域活動・行事への参加状況（全体・年代別）



- ・地区別にみると、「よく参加している」と「時々参加している」を合わせた参加している割合は「翔南小学校区」が49.5%を占め、その他の地域は20%台後半となっている。
- ・自治会の加入の状況別にみると、「よく参加している」と「時々参加している」を合わせた参加している割合は「加入している」が49.7%、「加入していない」が8.0%程度となっています。加入者の割合が、未加入者の割合を大きく上回っています。

地域活動・行事への参加状況（地区別・自治会加入状況別）

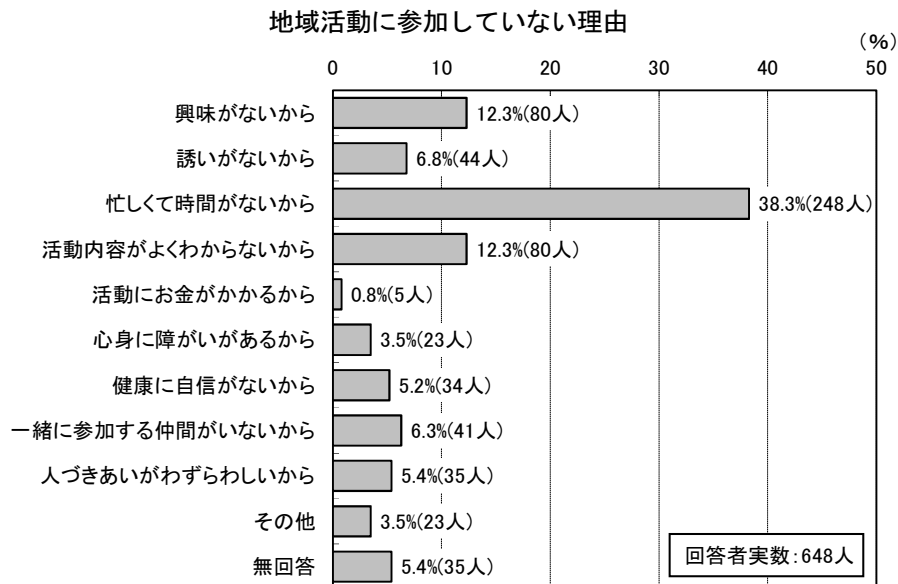


●前回アンケート結果より

- ・地域活動や行事に参加している：40.6%。

(13) 地域活動に参加していない理由

- ・地域活動に参加していない理由としては、「忙しくて時間がないから」が38.3%、「興味がないから」、「活動内容がよくわからないから」が12.3%と高くなっています。
- ・活動がよくわからないといった理由については、活動の周知を行うことで、活動への参加者は増えることが考えられます。

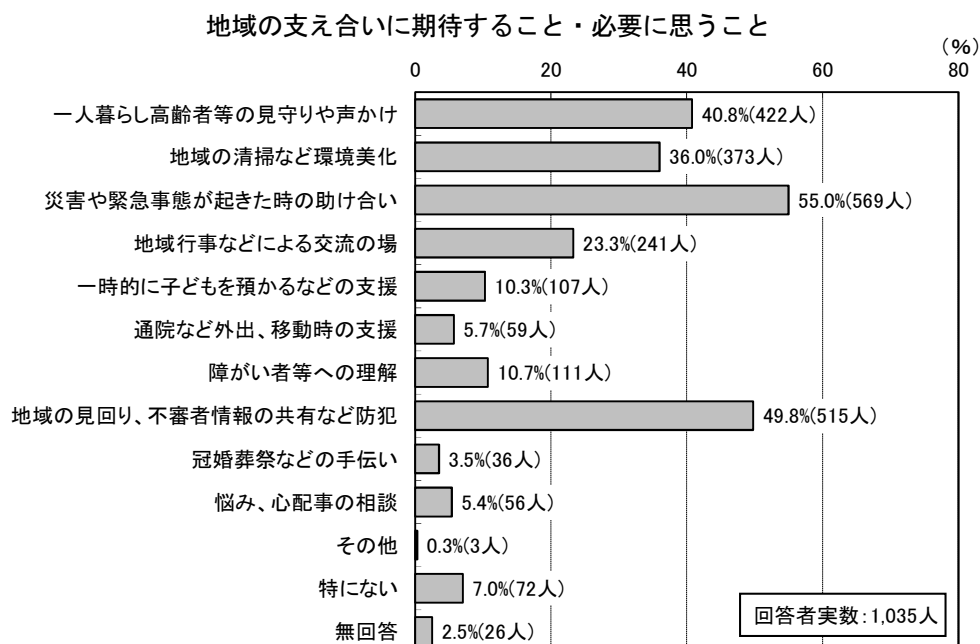


●前回アンケート結果より

- ・参加していない理由は「忙しくて時間がないから」34.3%。また、「興味がないから」が10.6%

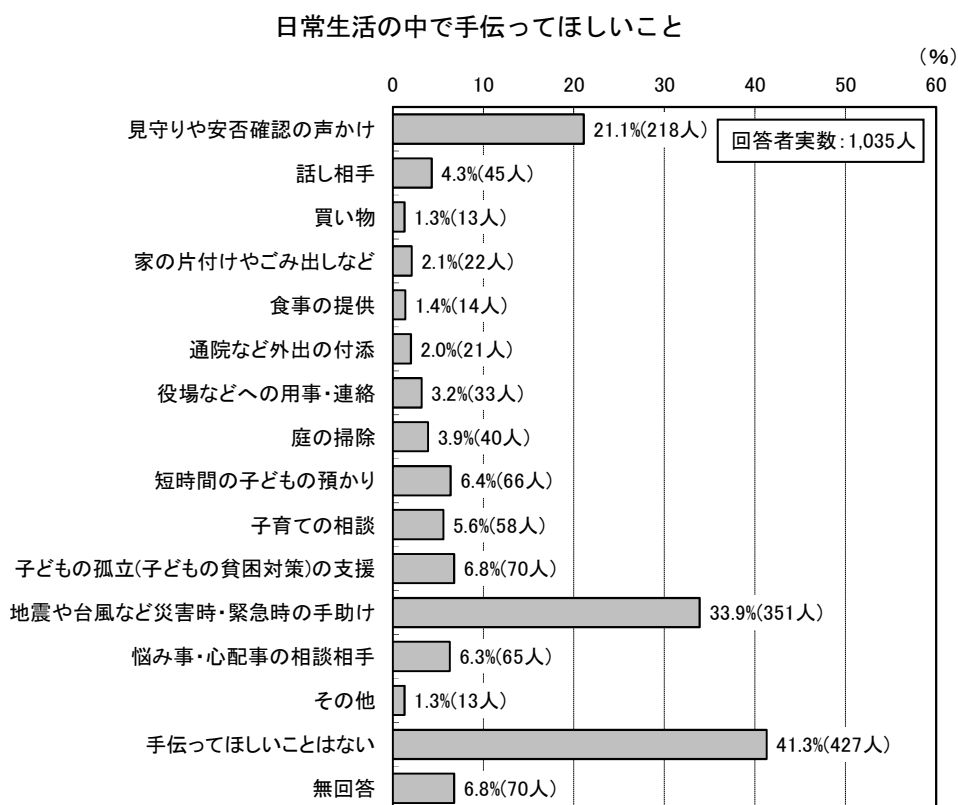
(14) 地域の支え合いに期待すること・必要に思うこと（複数回答）

- ・地域の支え合いに期待すること(必要に思うこと)については、「災害や緊急事態が起きた時の助け合い」が55.0%でもっとも高いです。次に「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯」の49.8%、「一人暮らし高齢者等の見守りや声かけ」40.8%となっています。



(15) 日常生活の中で手伝ってほしいこと（複数回答）

- ・地域の方に日常生活の中で手伝ってほしいことについては、「手伝ってほしいことはない」が41.3%を占めています。
- ・具体的に手伝ってほしいこととしては、「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」33.9%、「見守りや安否確認の声かけ」が21.1%で、この2つの手伝いを希望する声が高いです。



- ・同居家族別にみると「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」は、「幼児」、「要介護者」が40%台、「乳児」、「小学生」、「高齢者」が30%台後半で高くなっています。「見守りや安否確認の声かけ」は「幼児」が31.3%でもっとも多く、そのほか「乳児」、「小学生」、「要介護者」が20%台後半となっております。

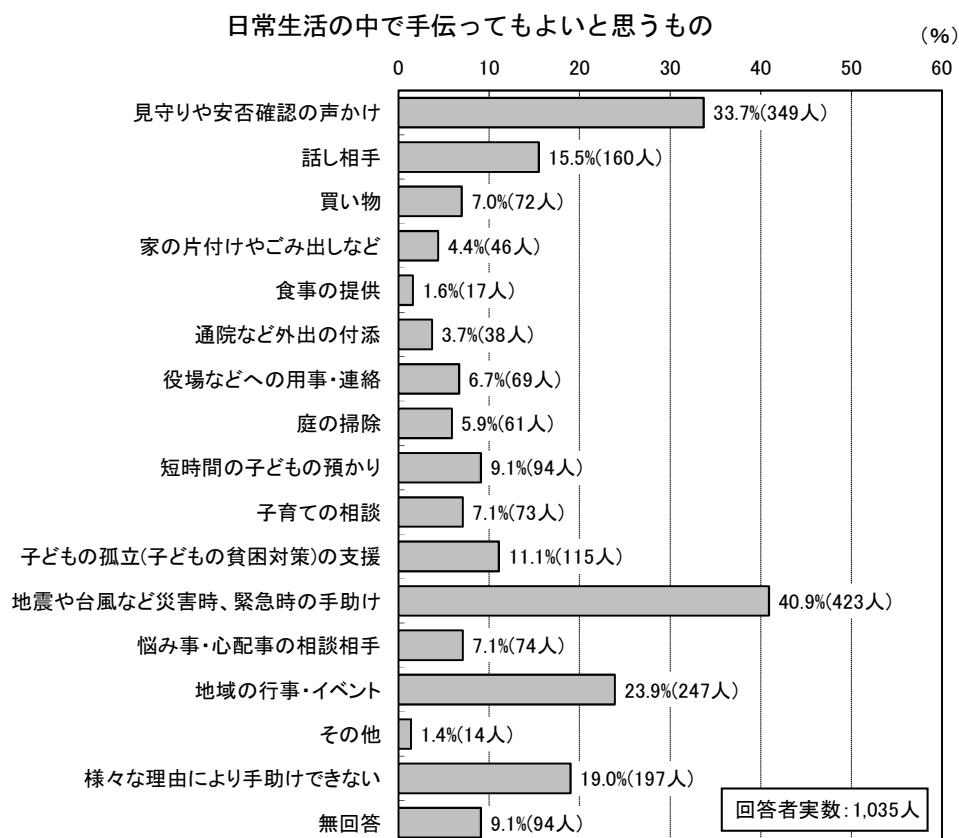
日常生活の中で手伝ってほしいこと（同居家族別）

	回答者実数	見守りや安否確認の声かけ	話し相手	買い物	家の片付けやごみ出しなど	食事の提供	通院など外出の付添	役場などへの用事・連絡	庭の掃除
乳児	54人	27.8% (15人)	0.0% (0人)	1.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.7% (2人)	0.0% (0人)
幼児	179人	31.3% (56人)	0.6% (1人)	0.0% (0人)	0.6% (1人)	0.0% (0人)	1.7% (3人)	2.2% (4人)	1.1% (2人)
高齢者	247人	18.6% (46人)	6.1% (15人)	2.0% (5人)	4.0% (10人)	2.4% (6人)	4.0% (10人)	2.8% (7人)	5.3% (13人)
要介護者	60人	25.0% (15人)	11.7% (7人)	8.3% (5人)	5.0% (3人)	6.7% (4人)	11.7% (7人)	10.0% (6人)	13.3% (8人)
障がい者	80人	15.0% (12人)	8.8% (7人)	3.8% (3人)	7.5% (6人)	2.5% (2人)	2.5% (2人)	5.0% (4人)	11.3% (9人)
小学生	199人	26.1% (52人)	2.5% (5人)	0.0% (0人)	1.5% (3人)	0.0% (0人)	1.5% (3人)	3.0% (6人)	1.5% (3人)
中・高校生	150人	24.7% (37人)	4.0% (6人)	0.7% (1人)	2.7% (4人)	1.3% (2人)	2.0% (3人)	4.0% (6人)	2.7% (4人)
専門・大学生	65人	21.5% (14人)	1.5% (1人)	0.0% (0人)	4.6% (3人)	1.5% (1人)	0.0% (0人)	1.5% (1人)	4.6% (3人)
いずれもいない	319人	17.6% (56人)	5.3% (17人)	1.3% (4人)	1.3% (4人)	1.6% (5人)	0.6% (2人)	2.8% (9人)	3.4% (11人)

	回答者実数	短時間の子ども預かり	子育ての相談	子どもの孤立（子どもの貧困）対策の支援	地震や台風など災害時・緊急時の手助け	悩み事・心配事の相談相手	その他	手伝ってほしいことはない	無回答
乳児	54人	27.8% (15人)	18.5% (10人)	11.1% (6人)	38.9% (21人)	3.7% (2人)	0.0% (0人)	24.1% (13人)	3.7% (2人)
幼児	179人	20.7% (37人)	13.4% (24人)	14.5% (26人)	43.6% (78人)	3.9% (7人)	0.6% (1人)	29.1% (52人)	1.7% (3人)
高齢者	247人	2.8% (7人)	1.6% (4人)	3.2% (8人)	37.2% (92人)	8.9% (22人)	0.8% (2人)	42.9% (106人)	8.9% (22人)
要介護者	60人	3.3% (2人)	3.3% (2人)	6.7% (4人)	41.7% (25人)	8.3% (5人)	1.7% (1人)	31.7% (19人)	10.0% (6人)
障がい者	80人	3.8% (3人)	5.0% (4人)	6.3% (5人)	20.0% (16人)	8.8% (7人)	0.0% (0人)	40.0% (32人)	13.8% (11人)
小学生	199人	8.5% (17人)	9.0% (18人)	15.6% (31人)	38.7% (77人)	3.5% (7人)	0.5% (1人)	37.2% (74人)	4.0% (8人)
中・高校生	150人	3.3% (5人)	2.7% (4人)	8.0% (12人)	32.0% (48人)	8.7% (13人)	0.7% (1人)	47.3% (71人)	5.3% (8人)
専門・大学生	65人	1.5% (1人)	0.0% (0人)	3.1% (2人)	36.9% (24人)	3.1% (2人)	0.0% (0人)	41.5% (27人)	7.7% (5人)
いずれもいない	319人	3.1% (10人)	4.1% (13人)	4.1% (13人)	29.8% (95人)	5.3% (17人)	2.5% (8人)	47.6% (152人)	6.6% (21人)

(16) 日常生活の中で手伝ってもよいと思うもの（複数回答）

・地域の方へ日常生活の中で手伝ってもよいと思うものについては、「地震や台風など災害時、緊急時の手助け」40.9%でもっとも多く、年代別でみると、年代が高くなるほど低くなる傾向にあり、20代では49.0%と半数近くを占めますが、80代では12.3%となっています。次いで「見守りや安否確認の声かけ」が33.7%で、年代別でみると、20代、30代が40%台あります。次に「地域の行事・イベント」が23.9%となっています。



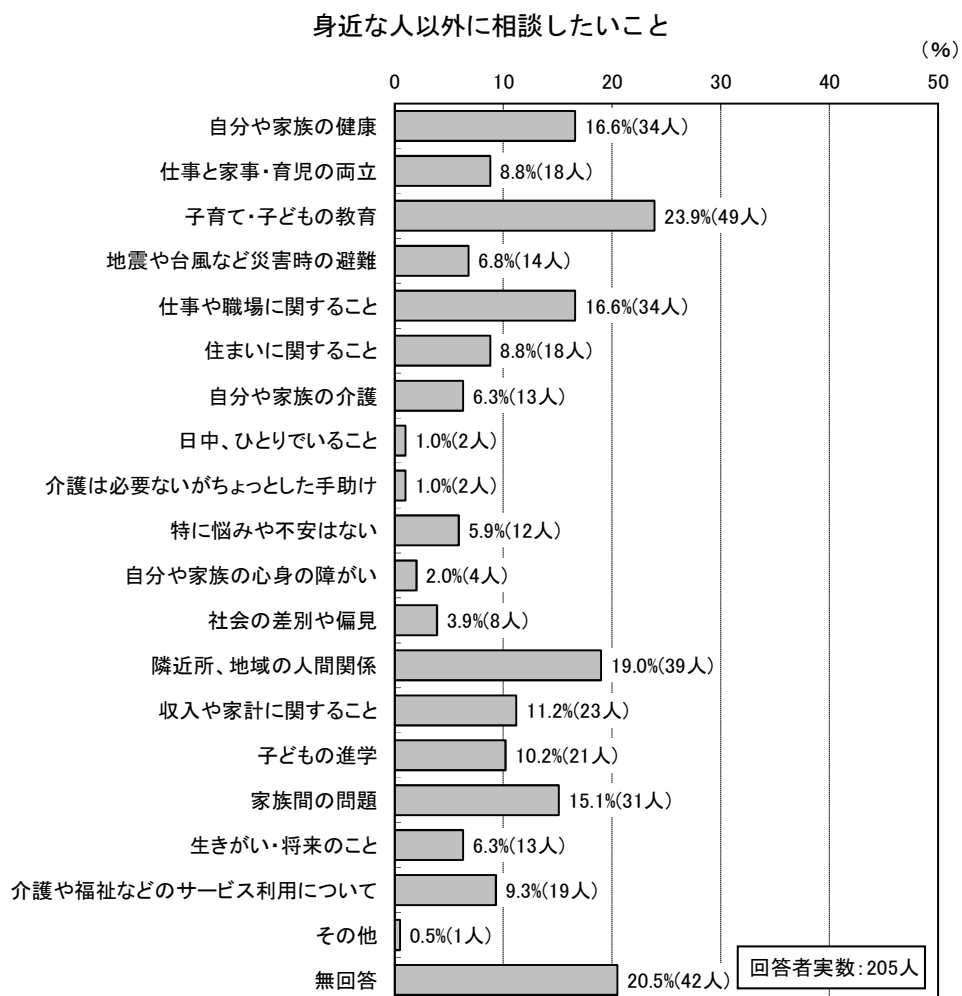
日常生活の中で手伝ってもよいと思うもの（年代別）

	回答者実数	見守りや安否確認の声かけ	話し相手	買い物	家の片付けやごみ出しなど	食事の提供	通院など外出の付添	役場などへの用事・連絡	庭の掃除	短時間の子ども預かり
20代	96人	41.7% (40人)	18.8% (18人)	2.1% (2人)	4.2% (4人)	2.1% (2人)	3.1% (3人)	5.2% (5人)	6.3% (6人)	5.2% (5人)
30代	198人	43.9% (87人)	18.2% (36人)	8.1% (16人)	6.6% (13人)	1.0% (2人)	3.0% (6人)	8.1% (16人)	7.6% (15人)	14.6% (29人)
40代	214人	36.0% (77人)	15.0% (32人)	10.3% (22人)	4.2% (9人)	0.9% (2人)	4.2% (9人)	7.9% (17人)	6.1% (13人)	11.7% (25人)
50代	145人	29.0% (42人)	9.7% (14人)	10.3% (15人)	4.8% (7人)	2.1% (3人)	4.1% (6人)	4.1% (6人)	4.1% (6人)	8.3% (12人)
60代	183人	29.5% (54人)	14.2% (26人)	4.9% (9人)	4.4% (8人)	2.7% (5人)	2.7% (5人)	5.5% (10人)	7.1% (13人)	8.7% (16人)
70代	122人	25.4% (31人)	10.7% (13人)	3.3% (4人)	3.3% (4人)	0.8% (1人)	4.1% (5人)	9.8% (12人)	4.1% (5人)	3.3% (4人)
80代	73人	20.5% (15人)	28.8% (21人)	5.5% (4人)	1.4% (1人)	2.7% (2人)	5.5% (4人)	4.1% (3人)	4.1% (3人)	4.1% (3人)

	回答者実数	子育ての相談	子どもの孤立（子どもの貧困対策）の支援	地震や台風など災害時、緊急時の手助け	悩み事・心配事の相談相手	地域の行事・イベント	その他	様々な理由により手助けできない	無回答
20代	96人	9.4% (9人)	14.6% (14人)	49.0% (47人)	4.2% (4人)	20.8% (20人)	1.0% (1人)	19.8% (19人)	4.2% (4人)
30代	198人	13.1% (26人)	14.6% (29人)	48.0% (95人)	7.6% (15人)	26.8% (53人)	1.5% (3人)	16.2% (32人)	1.5% (3人)
40代	214人	9.3% (20人)	13.1% (28人)	40.7% (87人)	8.4% (18人)	27.6% (59人)	1.9% (4人)	19.6% (42人)	4.2% (9人)
50代	145人	4.8% (7人)	12.4% (18人)	47.6% (69人)	5.5% (8人)	18.6% (27人)	1.4% (2人)	18.6% (27人)	9.0% (13人)
60代	183人	3.3% (6人)	9.8% (18人)	41.5% (76人)	6.0% (11人)	28.4% (52人)	0.5% (1人)	20.2% (37人)	10.4% (19人)
70代	122人	2.5% (3人)	4.1% (5人)	32.8% (40人)	8.2% (10人)	21.3% (26人)	1.6% (2人)	18.0% (22人)	22.1% (27人)
80代	73人	2.7% (2人)	4.1% (3人)	12.3% (9人)	11.0% (8人)	12.3% (9人)	1.4% (1人)	23.3% (17人)	26.0% (19人)

(17) 身近な人以外に相談したいこと（複数回答）

- ・身近な人以外に相談したいことは、「子育て・子どもの教育」が23.9%でもっとも多く、次いで「隣近所、地域の人間関係」が19.0%となっております。



- ・年代別にみると、「子育て・子どもの教育」は20代から40代で多く、30代は特に高く43.1%あります。「隣近所、地域の人間関係」は60代でもっとも多く29.6%あり、次いで30代、40代で20%程度となっております。

身近な人以外に相談したいこと（年代別）

	回答者実数	健康 自分や家族の	仕事と家事・育 児の両立	子育て・子ども の教育	地震や台風など 災害時の避難	仕事や職場に 関すること	住まいに関す ること	介護 自分や家族の	日中、ひとりで いること	介護は必要ないがちょ っとした手助け	特に悩みや不 安はない
20代	18人	16.7% (3人)	5.6% (1人)	22.2% (4人)	5.6% (1人)	11.1% (2人)	11.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
30代	58人	19.0% (11人)	19.0% (11人)	43.1% (25人)	12.1% (7人)	22.4% (13人)	12.1% (7人)	6.9% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.7% (1人)
40代	53人	15.1% (8人)	7.5% (4人)	32.1% (17人)	3.8% (2人)	22.6% (12人)	3.8% (2人)	1.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.4% (5人)
50代	26人	15.4% (4人)	3.8% (1人)	7.7% (2人)	7.7% (2人)	19.2% (5人)	7.7% (2人)	7.7% (2人)	0.0% (0人)	3.8% (1人)	7.7% (2人)
60代	27人	22.2% (6人)	3.7% (1人)	3.7% (1人)	3.7% (1人)	7.4% (2人)	11.1% (3人)	22.2% (6人)	3.7% (1人)	0.0% (0人)	7.4% (2人)
70代	11人	9.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	9.1% (1人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)
80代	12人	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.3% (1人)

	回答者実数	自分や家族の心 身の障がい	社会の差別や偏 見	隣近所、地域の人 間関係	収入や家計に関 すること	子どもの進学	家族間の問題	生きがい・将来の こと	介護や福祉などのサー ビス利用について	その他	無回答
20代	18人	0.0% (0人)	5.6% (1人)	11.1% (2人)	5.6% (1人)	11.1% (2人)	27.8% (5人)	5.6% (1人)	16.7% (3人)	5.6% (1人)	16.7% (3人)
30代	58人	0.0% (0人)	3.4% (2人)	20.7% (12人)	12.1% (7人)	6.9% (4人)	17.2% (10人)	6.9% (4人)	3.4% (2人)	0.0% (0人)	8.6% (5人)
40代	53人	1.9% (1人)	0.0% (0人)	20.8% (11人)	20.8% (11人)	9.4% (5人)	13.2% (7人)	3.8% (2人)	7.5% (4人)	0.0% (0人)	13.2% (7人)
50代	26人	11.5% (3人)	7.7% (2人)	15.4% (4人)	11.5% (3人)	15.4% (4人)	19.2% (5人)	11.5% (3人)	19.2% (5人)	0.0% (0人)	19.2% (5人)
60代	27人	0.0% (0人)	7.4% (2人)	29.6% (8人)	3.7% (1人)	22.2% (6人)	14.8% (4人)	7.4% (2人)	14.8% (4人)	0.0% (0人)	25.9% (7人)
70代	11人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.1% (1人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	54.5% (6人)
80代	12人	0.0% (0人)	8.3% (1人)	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (9人)

- ・性別にみると、「子育て・子どもの教育」は女性の方が高く27.9%あり、男性は14.0%となっております。反対に「隣近所、地域の人間関係」では男性が高く24.6%、女性は17.0%となっております。

身近な人以外に相談したいこと（性別）

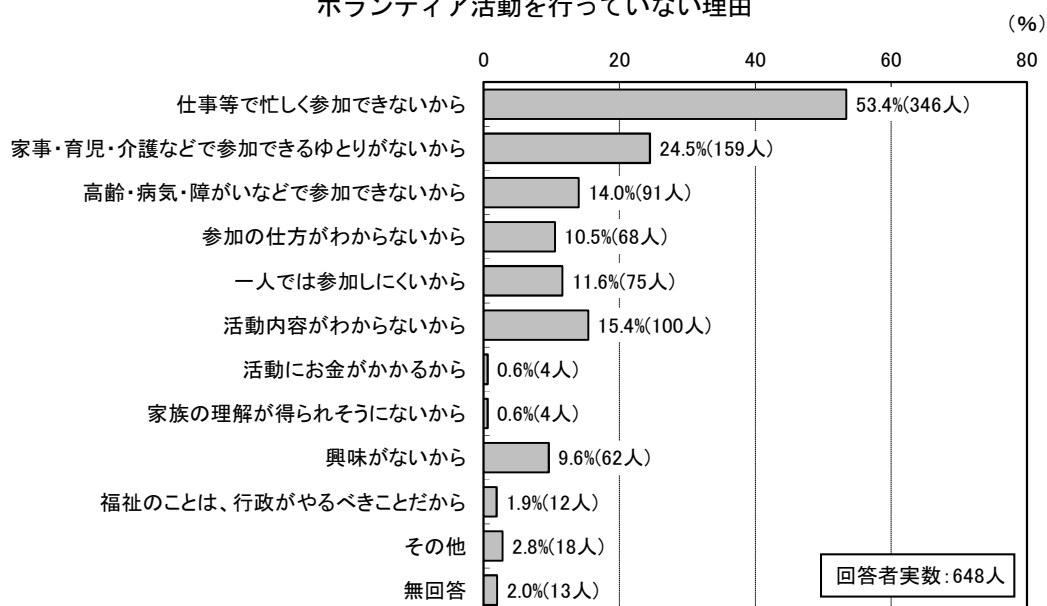
	回答者実数	健康 自分や家族の	仕事と家事・育 児の両立	子育て・子ども の教育	地震や台風など 災害時の避難	仕事や職場に 関すること	住まいに関す ること	介護 自分や家族の	日中、ひとり でいること	介護は必要ないが ちょっとした手助け	特に悩みや不 安はない
男性	57人	12.3% (7人)	7.0% (4人)	14.0% (8人)	3.5% (2人)	22.8% (13人)	8.8% (5人)	1.8% (1人)	1.8% (1人)	0.0% (0人)	1.8% (1人)
女性	147人	18.4% (27人)	9.5% (14人)	27.9% (41人)	8.2% (12人)	13.6% (20人)	8.8% (13人)	8.2% (12人)	0.7% (1人)	1.4% (2人)	7.5% (11人)

	回答者実数	自分や家族の 心身の障がい	社会の差別や 偏見	隣近所、地域の 人間関係	収入や家計に 関すること	子どもの進学	家族間の問題	生きがい・将来 のこと	介護福祉などのサ ービス利用について	その他	無回答
男性	57人	0.0% (0人)	5.3% (3人)	24.6% (14人)	7.0% (4人)	7.0% (4人)	10.5% (6人)	5.3% (3人)	5.3% (3人)	0.0% (0人)	28.1% (16人)
女性	147人	2.7% (4人)	3.4% (5人)	17.0% (25人)	12.9% (19人)	11.6% (17人)	17.0% (25人)	6.8% (10人)	10.9% (16人)	0.7% (1人)	17.7% (26人)

(18) ボランティア活動を行っていない理由（複数回答）

- ・ボランティア活動を行っていない理由については、「仕事等で忙しく参加できないから」が53.4%、「家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから」が24.5%と時間的な余裕がないという回答が高くなっています。次いで、「活動内容がわからないから」が15.4%となっています。

ボランティア活動を行っていない理由



- ・年代別にみると、「仕事等で忙しく参加できないから」は20代～40代で60％台、50代では74.7％となっています。「家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから」は30代、40代で40％台、他の年代では10％台以下となっています。「活動内容がわからないから」は50代がもっとも高く20.9％、他の年代では10％台以下となっています。

ボランティア活動を行っていない理由（年代別）

	回答者実数	仕事等で忙しく参加できないから	家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから	高齢・病気・障がいなどで参加できないから	参加の仕方がわからないから	一人では参加しにくいから	活動内容がわからないから
20代	59人	61.0% (36人)	16.9% (10人)	5.1% (3人)	13.6% (8人)	10.2% (6人)	16.9% (10人)
30代	126人	65.1% (82人)	45.2% (57人)	2.4% (3人)	15.1% (19人)	8.7% (11人)	11.1% (14人)
40代	137人	62.0% (85人)	42.3% (58人)	2.2% (3人)	8.8% (12人)	13.9% (19人)	15.3% (21人)
50代	91人	74.7% (68人)	15.4% (14人)	7.7% (7人)	13.2% (12人)	11.0% (10人)	20.9% (19人)
60代	116人	43.1% (50人)	11.2% (13人)	12.1% (14人)	10.3% (12人)	8.6% (10人)	17.2% (20人)
70代	76人	23.7% (18人)	6.6% (5人)	36.8% (28人)	5.3% (4人)	19.7% (15人)	14.5% (11人)
80代	40人	12.5% (5人)	5.0% (2人)	80.0% (32人)	2.5% (1人)	10.0% (4人)	10.0% (4人)

	回答者実数	活動にお金がかかるから	家族の理解が得られそうにないから	興味が ないから	福祉のことは、 行政がやるべきことだから	その他	無回答
20代	59人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	13.6% (8人)	1.7% (1人)	6.8% (4人)	3.4% (2人)
30代	126人	0.0% (0人)	0.8% (1人)	9.5% (12人)	0.0% (0人)	0.8% (1人)	0.8% (1人)
40代	137人	0.7% (1人)	0.0% (0人)	8.0% (11人)	0.0% (0人)	3.6% (5人)	2.2% (3人)
50代	91人	1.1% (1人)	1.1% (1人)	5.5% (5人)	2.2% (2人)	1.1% (1人)	0.0% (0人)
60代	116人	1.7% (2人)	0.0% (0人)	14.7% (17人)	2.6% (3人)	4.3% (5人)	3.4% (4人)
70代	76人	0.0% (0人)	2.6% (2人)	11.8% (9人)	6.6% (5人)	1.3% (1人)	2.6% (2人)
80代	40人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.5% (1人)	2.5% (1人)	2.5% (1人)

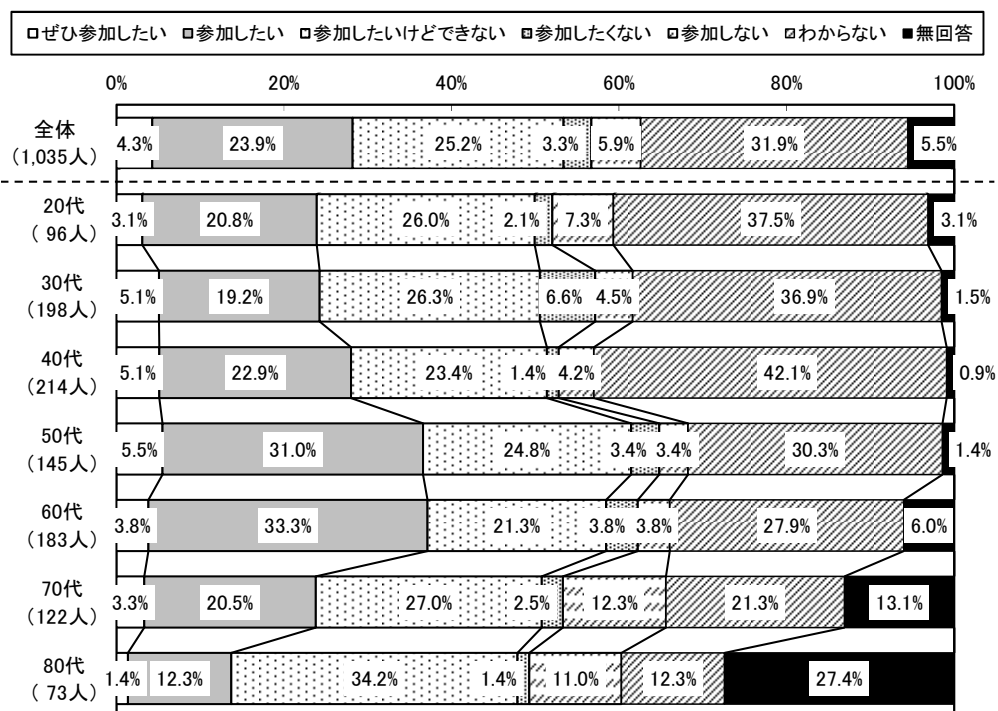
●前回アンケート結果より

- ・ボランティアに参加しない理由は「仕事等で忙しく参加できないから」43.8％、「家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから」20.1％、「高齢・病気・障がいなどで参加できないから」20.5％、「活動内容がわからないから」15.7％

(19) 今後のボランティア活動への参加意向

- ・今後のボランティア活動への参加意向については、「わからない」がもっとも多く31.9%、参加したい割合は、「参加したいけどできない」が25.2%、「参加したい」23.9%、「ぜひ参加したい」4.3%で合わせると、53.4%を占めます。

今後のボランティア活動への参加意向（全体・年代別）

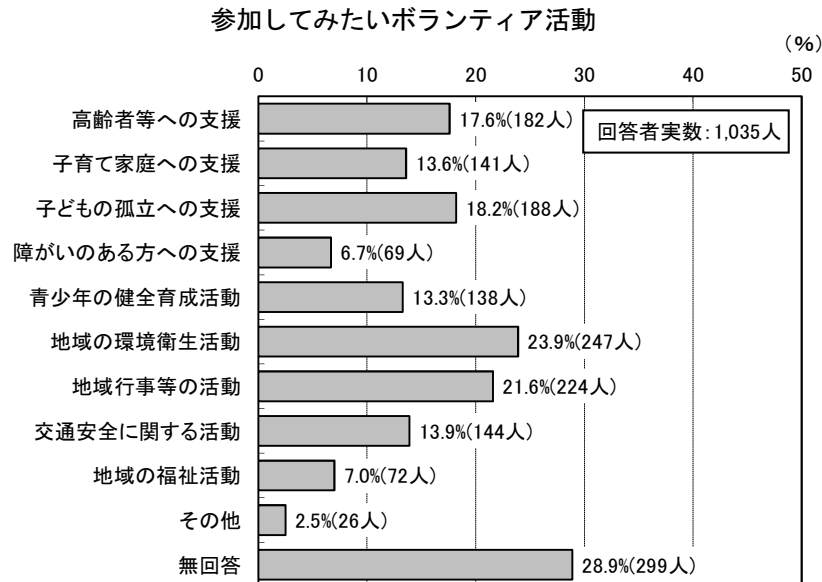


●前回アンケート結果より

- ・参加したい割合は、「参加したいけどできない」29.0%、「参加したい」26.9%、「ぜひ参加したい」5.0%で合わせると60.9%

(20) 参加してみたいボランティア活動（複数回答）

- ・今後、参加してみたいと思うボランティア活動については、「地域の環境衛生活動」が23.9%でもっとも高く、続いて「地域行事等の活動」が21.6%、「子どもの孤立への支援」が18.2%、「高齢者等への支援」が17.6%となっています。



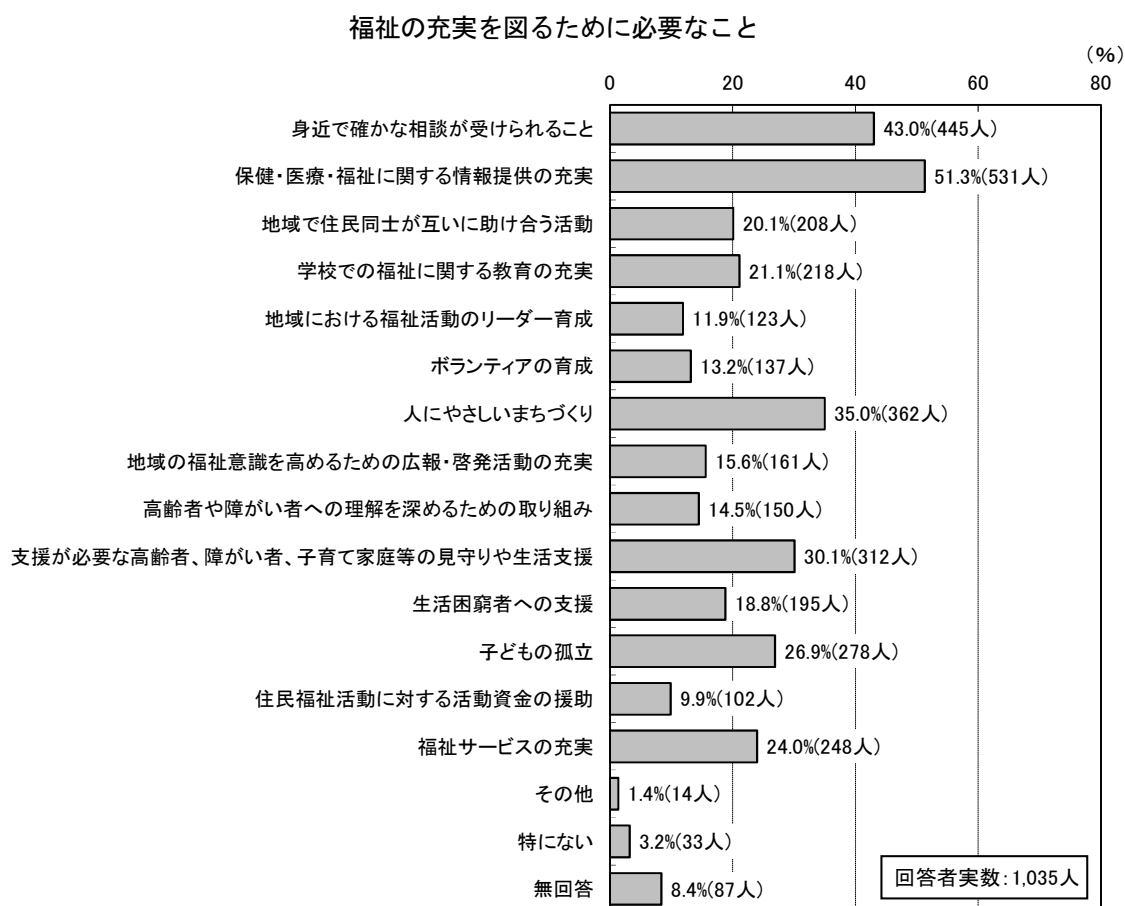
- ・性別にみると、「青少年の健全育成活動」、「地域の環境衛生活動」、「地域行事等の活動」、「交通安全に関する活動」の4つのボランティア活動の意向については、いずれも男性の割合が高く、中でも「地域の環境衛生活動」では「女性」の割合を16.6ポイント上回っており、男女差がもっとも大きくなっています。
- ・女性では、「高齢者等への支援」や「子育て家庭への支援」、「子どもの孤立への支援」、「障がいのある方への支援」、「地域の福祉活動」が男性より高く、中でも「子育て家庭への支援」では「男性」の割合を12.7ポイント上回っています。

参加してみたいボランティア活動（性別）

	回答者実数	支援 高齢者等への	の支援 子育て家庭への	への支援 子どもの孤立	方への支援 障がいのある	育成活動 青少年の健全	生活動 地域の環境衛	活動 地域行事等の	する活動 交通安全に関	動 地域の福祉活	その他	無回答
男性	408人	14.2% (58人)	5.9% (24人)	12.7% (52人)	4.4% (18人)	22.1% (90人)	33.8% (138人)	23.8% (97人)	16.9% (69人)	4.9% (20人)	2.7% (11人)	26.7% (109人)
女性	622人	19.8% (123人)	18.6% (116人)	21.5% (134人)	8.2% (51人)	7.7% (48人)	17.2% (107人)	20.3% (126人)	12.1% (75人)	8.4% (52人)	2.4% (15人)	30.4% (189人)
割合の差		△ 5.6	△ 12.7	△ 8.8	△ 3.8	+ 14.4	+ 16.6	+ 3.5	+ 4.8	△ 3.5	+ 0.3	△ 3.7

(21) 福祉の充実を図るために必要なこと（複数回答）

- ・南風原町における福祉の充実を図るために、必要なことについては、「保健・医療・福祉に関する情報提供の充実」が51.3%でもっとも高いです。
- ・また、「身近で確かな相談が受けられること」が43.0%、「人にやさしいまちづくり」が35.0%で比較的高くなっています。



●前回アンケート結果より

- ・「保健・医療・福祉に関する情報提供の充実」が58.0%でもっとも高い
- ・次いで「身近で確かな相談が受けられること」54.8%、「支援が必要な高齢者、障がい者、子育て家庭等の見守りや生活支援」36.4%、「人にやさしいまちづくり」35.2%。

3 調査結果のまとめ(考察)

＜世帯について＞ ～子育て世代、アパート世帯が多くなっている

- 調査では、20代から40代の「子育て世代」が多くなっているほか、これらの世代では「賃貸のアパート住まい」が大半を占めている。
- また、津嘉山小学校区で人口増加が著しくなっているが、調査より、この地区の「持ち家率」が前回調査より大幅に下がり、若い世代の「アパート世帯」が急増しており、賃貸アパートに住む割合は、4小学校区の中で最も高く5割を超えている。
- 町内でのアパート世帯の増加が一つのポイントであり、このことは、後述するように「若い世代（子育て世代）の増加」、「自治会加入率の低下」、「地域福祉活動への参加の低下」など、地域のつながりの希薄に影響を与えている。その大きな理由として「仕事や子育てが忙しい」ことがあげられている。子育て世代は日々の生活・仕事・子育てにほとんどの時間をかけているため、地域活動等に参加したり気持ちを向けるゆとりがないことがうかがえる。

＜自治会加入について＞ ～自治会への加入は、若い世代、アパート世帯で低い

- 自治会の加入率は5割程度で、特に60代以上は約7割を超えているが、40代以下では5割に満たない状況にあり、さらに30代や20代では3割程度にとどまっている。
- アパート世帯では加入率が2割程度と低く、さらに町内への居住年数が短いほどその割合は低くなっている（居住年数5年未満は2割以下）。
- アパート世帯が急増している津嘉山小学校区ではこの状況が顕著で、自治会加入率43%と、他の小学校より低くなっている。

＜地域の支え合い＞ ～高齢者や要介護者だけではなく、乳幼児のいる世帯も地域支援を求めている ～防犯や防災の取り組みが必要とされている

- 近所付き合いの必要性を尋ねる問いでは、20代から40代は「地域の防犯(見回り、不審者情報共有など)」、「災害時の助け合い」のために必要という回答が多くなっている。これが70代や80代では、「日頃の助け合い」という生活支援を挙げる声が多い。
- 地域の支え合いというと、高齢者への支援がすぐ思い浮かぶが、高齢者や要介護者のいる世帯で「日頃の助け合い」と回答する割合（4割程度）より、幼児や小学生等子どもがいる世帯を中心に、「地域の防犯(見回り、不審者情報共有など)」という回答が高く（6割程度）なっている。近所づきあいでは高齢者の見守り等支援だけではなく、子育て世帯への支援、特に防犯や防災に関する支え合いも求められている。
- また、地域の支え合いに期待することとしても、「災害時の助け合い」や「地域の防犯(見回り、不審者情報共有など)」、「一人暮らし高齢者等の見守り」が多く挙げられており、地域活動は子育てや仕事があり忙しくて参加できないとしながらも、こういった点で地域支え合いの必要性は感じていることがわかる。

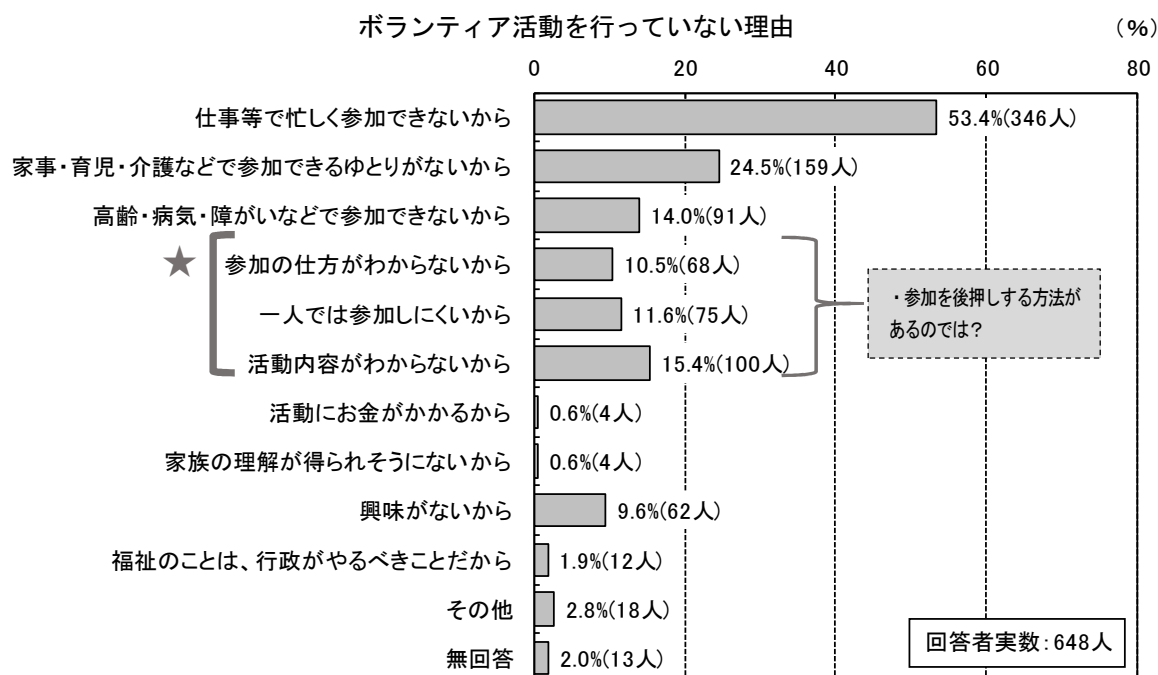
＜人と「ふれあう」機会＞ ～50代以下での「ふれあう機会ない」への対応が必要

- 人とふれあう機会が「ない」という、孤立のおそれがある回答は、年代別に見ると50代が2割余りで最も高く、また40代でも2割近くを占める。これに対し、60代は12%、70代、80代では1割に満たない。50代以下の孤立については、単身世帯ということではなく、夫婦世帯や子育て世帯で就労もして社会との接点はあるが、家庭として地域の中では接点がないというケースが考えられる。子育てや仕事に起因する“うつ”や児童虐待などを招かないように、今後状況把握やつながりの確保、孤立予防対策など、関係機関の連携に努める必要がある。
- 家族構成別にみると、孤立のおそれが大きいと思われる「一人暮らし」が17%であるのに対し、「ひとり親と子」が23%となっている。地域福祉においては対策として一人暮らし高齢者の見守り等支援が重視されるが、このほかひとり親世帯への見守りや孤立予防の対策も必要であると考えられる。

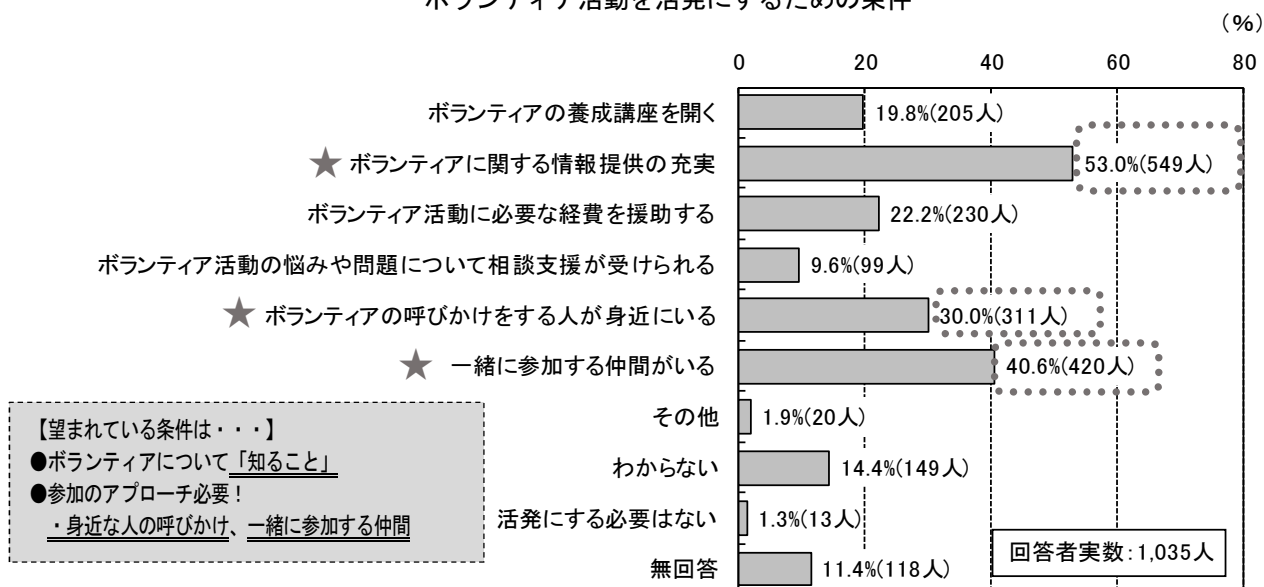
＜ボランティアに参加していない＞ ～参加したい人の中には、「参加の仕方がわからない」、「一緒に参加する仲間がいない」という回答が見られる。

- ボランティアへの不参加理由は、地域活動への不参加理由と同様に、「仕事で忙しい」「家事育児などで忙しい」という割合が大半を占めている。しかし、中には「参加の仕方がわからない」や「一人では参加しにくい」という回答も見られる。こういった回答は、特に「参加したい」や「参加したいけどできない」という回答者の中で多く見られる。身近なところにボランティアを感じられるもの（ポスター、まちなかボランティアセンター、ボランティア参加の声かけ など）を増やし、ボランティアに参加しやすい環境づくりを行う必要がある。
- また、ボランティア経験者（現在はボランティアしていない）は、今後は「参加したい」という割合が比較的高い。「一緒に参加する仲間」や「参加を呼び掛けてくれる人」など、きっかけをつくれれば、活動参加につながる可能性があると思われる。

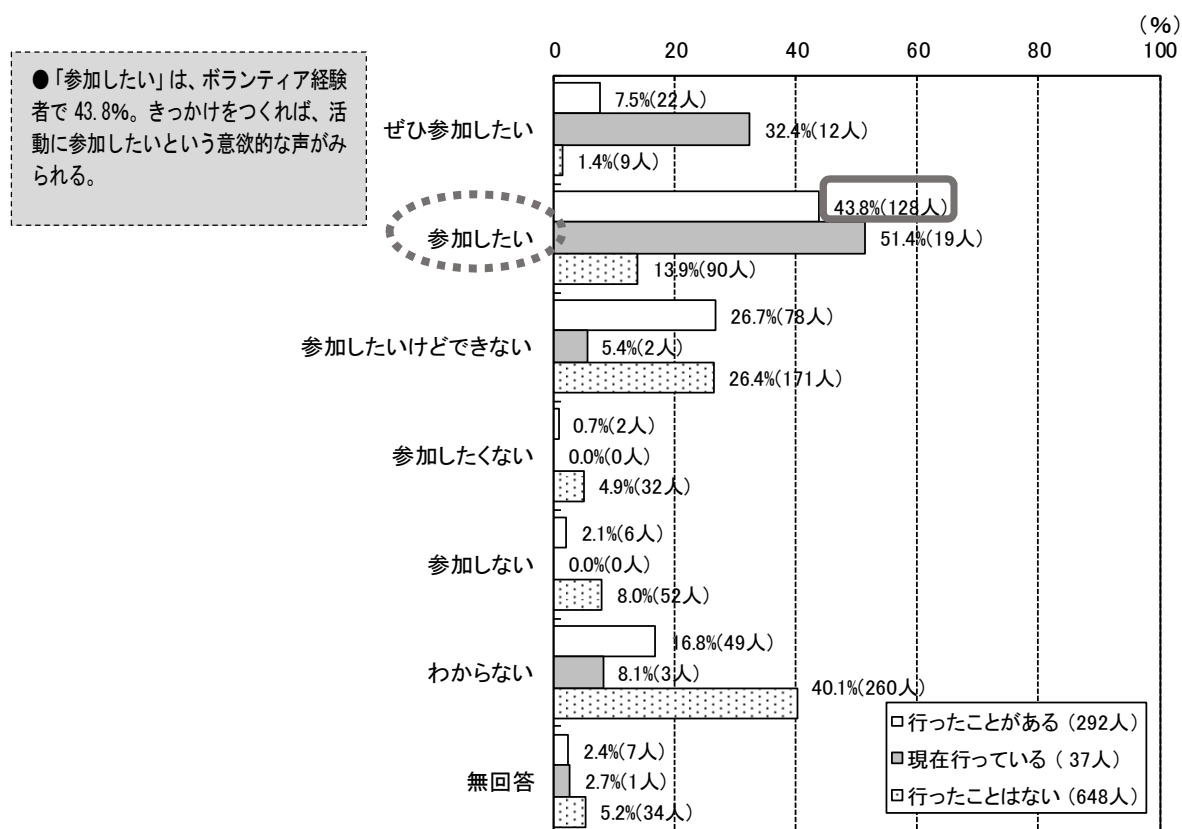
□参考資料（「ボランティアに参加していない」関連）□



ボランティア活動を活発にするための条件



今後のボランティア活動への参加意向（ボランティア活動の有無別）



今後のボランティア活動への参加意向（ボランティア活動を行っていない理由別）

	回答者 実数	ぜひ参 加した い	参加し たい	参加し たいけ どでき ない	参加し たくない	参加し ない	わから ない	無回答
全体数	1,035人	4.3% (45人)	23.9% (247人)	25.2% (261人)	3.3% (34人)	5.9% (61人)	31.9% (330人)	5.5% (57人)
仕事等で忙しく参加 できない	346人	0.3% (1人)	15.9% (55人)	29.2% (101人)	4.9% (17人)	4.9% (17人)	41.6% (144人)	3.2% (11人)
家事・育児・介護などで参 加できるゆとりがない から	159人	1.3% (2人)	12.6% (20人)	30.2% (48人)	4.4% (7人)	3.8% (6人)	44.7% (71人)	3.1% (5人)
高齢・病気・障がいな どで参加できない から	91人	0.0% (0人)	3.3% (3人)	36.3% (33人)	4.4% (4人)	19.8% (18人)	25.3% (23人)	11.0% (10人)
★ 参加の仕方がわから ないから	68人	7.4% (5人)	32.4% (22人)	19.1% (13人)	0.0% (0人)	4.4% (3人)	32.4% (22人)	4.4% (3人)
一人では参加しにく いから	75人	2.7% (2人)	17.3% (13人)	33.3% (25人)	1.3% (1人)	1.3% (1人)	38.7% (29人)	5.3% (4人)
活動内容がわからな いから	100人	3.0% (3人)	20.0% (20人)	22.0% (22人)	4.0% (4人)	2.0% (2人)	44.0% (44人)	5.0% (5人)
活動にお金がかかる から	4人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)
家族の理解が得られ ない	4人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
興味がないから	62人	1.6% (1人)	1.6% (1人)	3.2% (2人)	11.3% (7人)	25.8% (16人)	54.8% (34人)	1.6% (1人)
福祉のことは、行政 がやるべきこと だから	12人	0.0% (0人)	8.3% (1人)	33.3% (4人)	0.0% (0人)	8.3% (1人)	41.7% (5人)	8.3% (1人)
その他	18人	5.6% (1人)						

●「参加の仕方がわからない」は、ほかの不参加理由と比べて参加意欲が高い。参加方法の周知が行き届けば、ボランティア活動をする住民が増えるのではないかと考えられる。